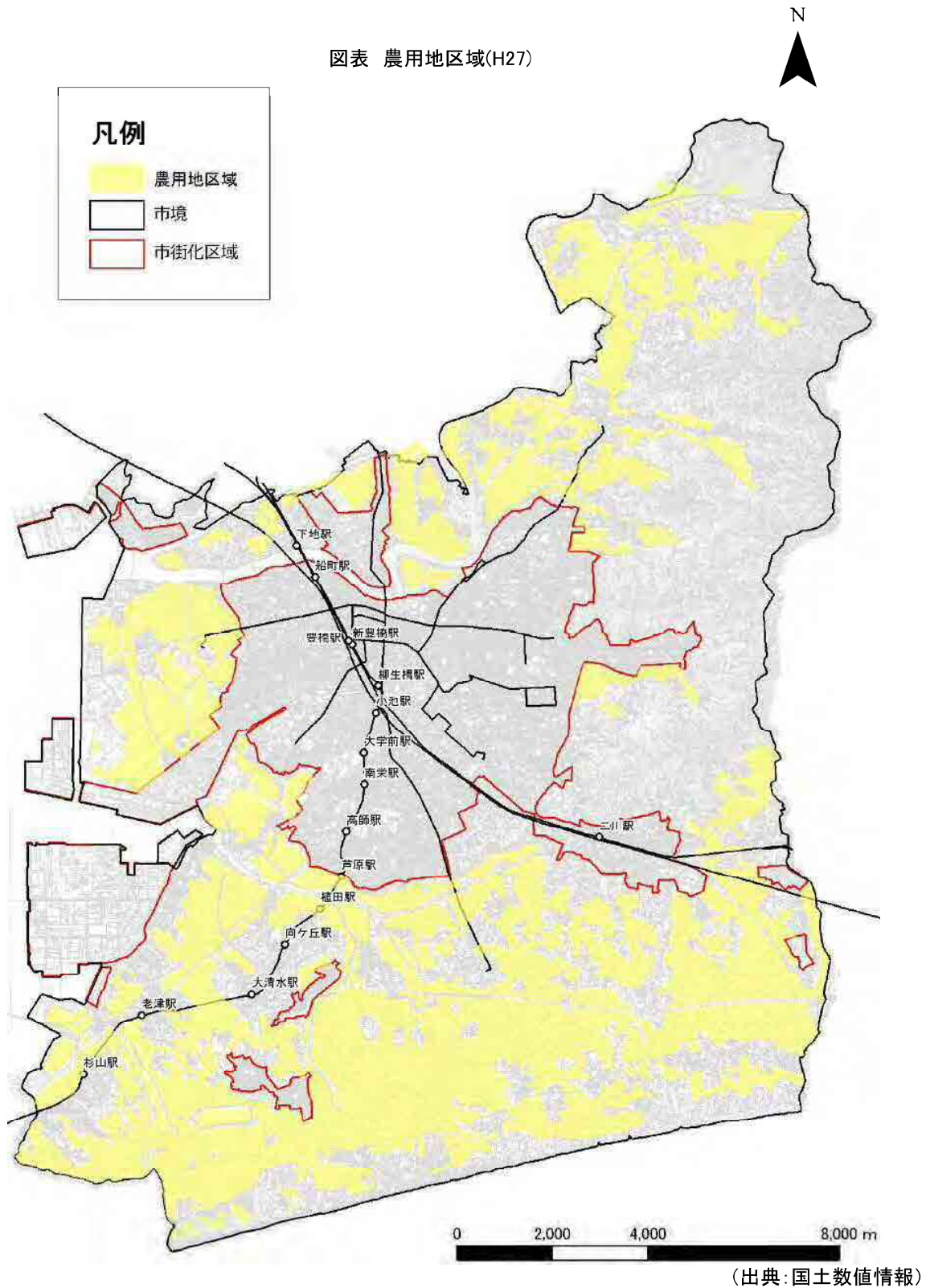


3. 土地利用

(1) 法指定の状況（都計法・農振法）

●市全域において都市計画区域、市街化調整区域の広範囲に、農用地区域が指定されています。

・市域全域が都市計画区域に指定されています。

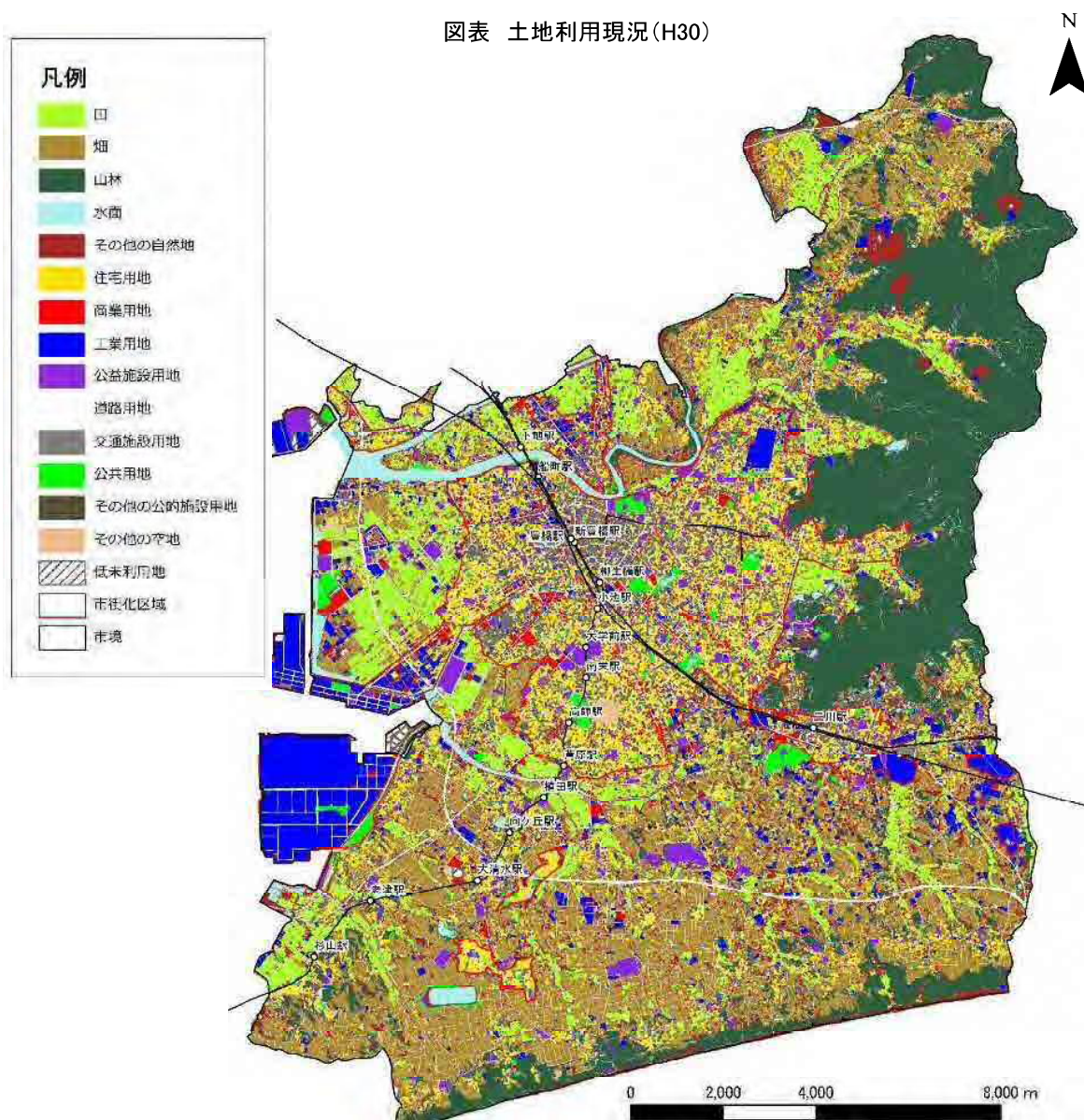


(2) 土地利用の状況

- 市域中央部に市街地、それを囲む形で農地が広がり、市域東部の丘陵地と南部の海岸沿いの森林が特徴。
- 近年、市街化区域では商業用地と水田が減少、市街化調整区域では工業用地、交通施設用地の増加が顕著にみられる。

(土地利用の現況)

- ・ JR 東海道本線、飯田線を挟んだ市域中央部は市街化が進んでおり、また、市域西側の臨海部埋立地は大規模な工業地として利用されています。
- ・ 市街地の外縁部には水田をはじめ農地が広がっており、東側の市域界沿いの丘陵地と南部の海岸沿いにはまとまった森林があります。



(出典: 都市計画基礎調査)

(土地利用の推移)

- ・平成 25 年から 30 年にかけての土地利用内訳の推移をみると、市街化区域においては、都市的土地利用が約 1%増加し、自然的土地利用は約 14%減少、特に水田が約 42%と大幅に減少しています。また、都市的土地利用のなかでは、商業用地が約 15%減少し、特に 1ha 以上の大規模な商業施設用地は約 45%と大幅に減少しています。このほか、交通施設用地も約 29%と大きく減少しています。
- ・市街化調整区域では、自然的土地利用が約 1%の減少、これに対して都市的土地利用は約 5%増加しており、工業用地は約 40%、交通施設用地は約 45%と大幅に増加しています。

図表 土地利用の区分別面積の推移

【市街化区域】

年度	自然的土地利用(ha)					自然的土地利用合計
	農地		山林	水面	その他の自然 地	
	田	畑				
H25	25.12	267.91	60.23	61.85	108.35	523.46
H30	14.64	204.25	49.29	59.60	119.92	447.70
増加率	-42%	-24%	-18%	-4%	11%	-14%

年度	都市的土地利用(ha)										都市的土地利用合計
	住宅用地	商業用地		工業用地		公的・公益用地	道路用地	交通施設用地	公共空地	その他の空地・低未利用地	
		1ha以上の商業施設用地	工業専用地域面積								
H25	2,028.11	517.02	150.49	1,011.51	636.10	378.40	1,012.79	97.13	236.04	379.54	5,660.54
H30	2,115.53	440.26	83.20	1,105.68	725.20	383.20	1,025.54	69.23	239.38	357.48	5,736.30
増加率	4%	-15%	-45%	9%	14%	1%	1%	-29%	1%	-6%	1%

【市街化調整区域】

年度	自然的土地利用(ha)					自然的土地利用合計
	農地		山林	水面	その他の自然 地	
	田	畑				
H25	2,506.60	5,929.52	4,674.90	737.88	1,664.96	15,513.86
H30	2,351.15	5,665.87	4,779.98	716.08	1,841.61	15,354.69
増加率	-6%	-4%	2%	-3%	11%	-1%

年度	都市的土地利用(ha)										都市的土地利用合計
	住宅用地	商業用地		工業用地		公的・公益用地	道路用地	交通施設用地	公共空地	その他の空地・低未利用地	
		1ha以上の商業施設用地	工業専用地域面積								
H25	1,292.06	234.94	68.89	475.18	0.00	434.37	1,480.52	24.92	138.32	356.83	4,437.14
H30	1,308.46	226.83	67.60	667.53	0.00	457.11	1,526.18	36.06	144.87	280.27	4,647.31
増加率	1%	-3%	-2%	40%	-	5%	3%	45%	5%	-21%	5%

(出典:都市計画基礎調査)

(3) 都市的低未利用地の状況

●市街化区域内に広範囲に小規模な都市的低未利用地が分散しているが、平成 25 年から 30 年にかけてその面積は減少している。

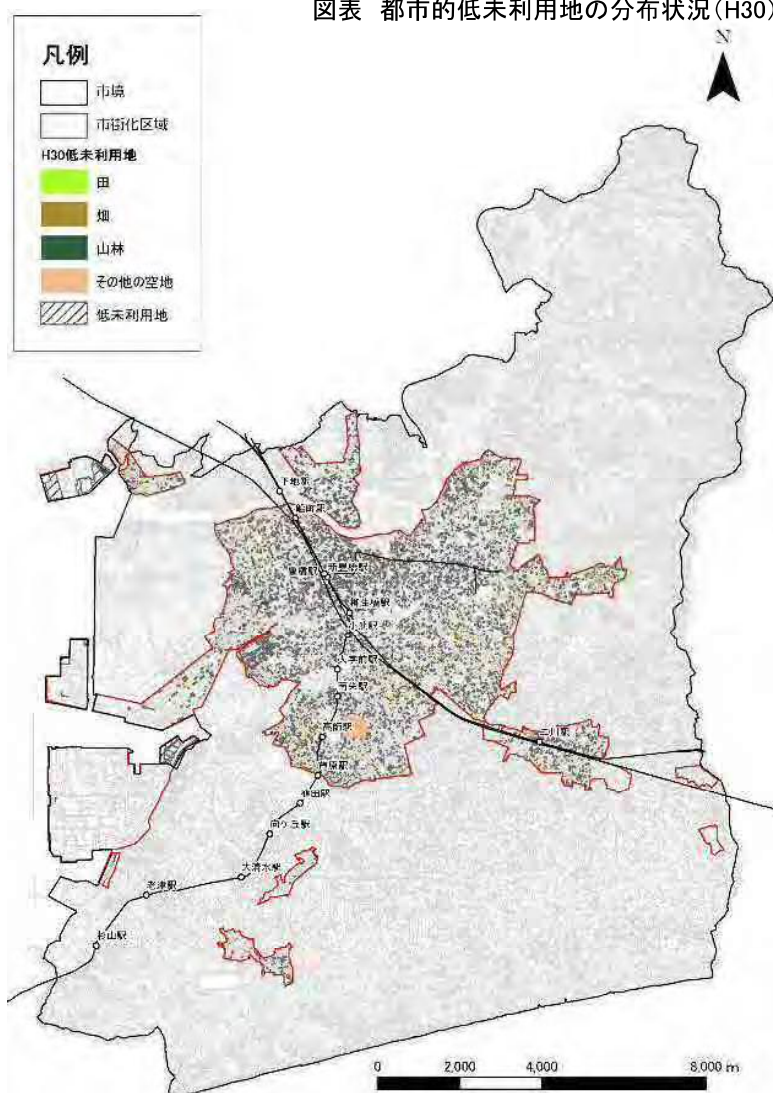
・市街化区域内の都市的低未利用地は、広範囲に小規模なものが分散しており、平成 25 年から 30 年にかけて約 107ha 減少、市街化区域面積に占める比率は 11.8%から 10.1%へと低下しています。

図表 都市的低未利用地の区分別面積

年度	面積 (ha)					市街化区域面積に対する割合 (%)				
	田	畑	山林	その他の空地及び低未 利用地	計	田	畑	山林	その他の空地 及び低未 利用地	計
H25	25.12	267.91	60.23	379.54	732.80	0.4%	4.3%	1.0%	6.1%	11.8%
H30	14.64	204.25	49.29	357.48	625.66	0.2%	3.3%	0.8%	5.8%	10.1%

(出典:都市計画基礎調査)

図表 都市的低未利用地の分布状況(H30)



(出典:都市計画基礎調査)

(4) 市街化区域内の農地

- 市街化区域内において農地、特に水田の減少が顕著である。
- 市街化区域内において農地の宅地化が進展している。

- ・平成 25 年から平成 30 年にかけて、市街化区域内において農地の増減状況をみると、市街化区域内において農地が大きく減少しており、減少率が 25%に達しています。その中で、水田の減少率は 50%近くあって、水田の減少が顕著にみられます。

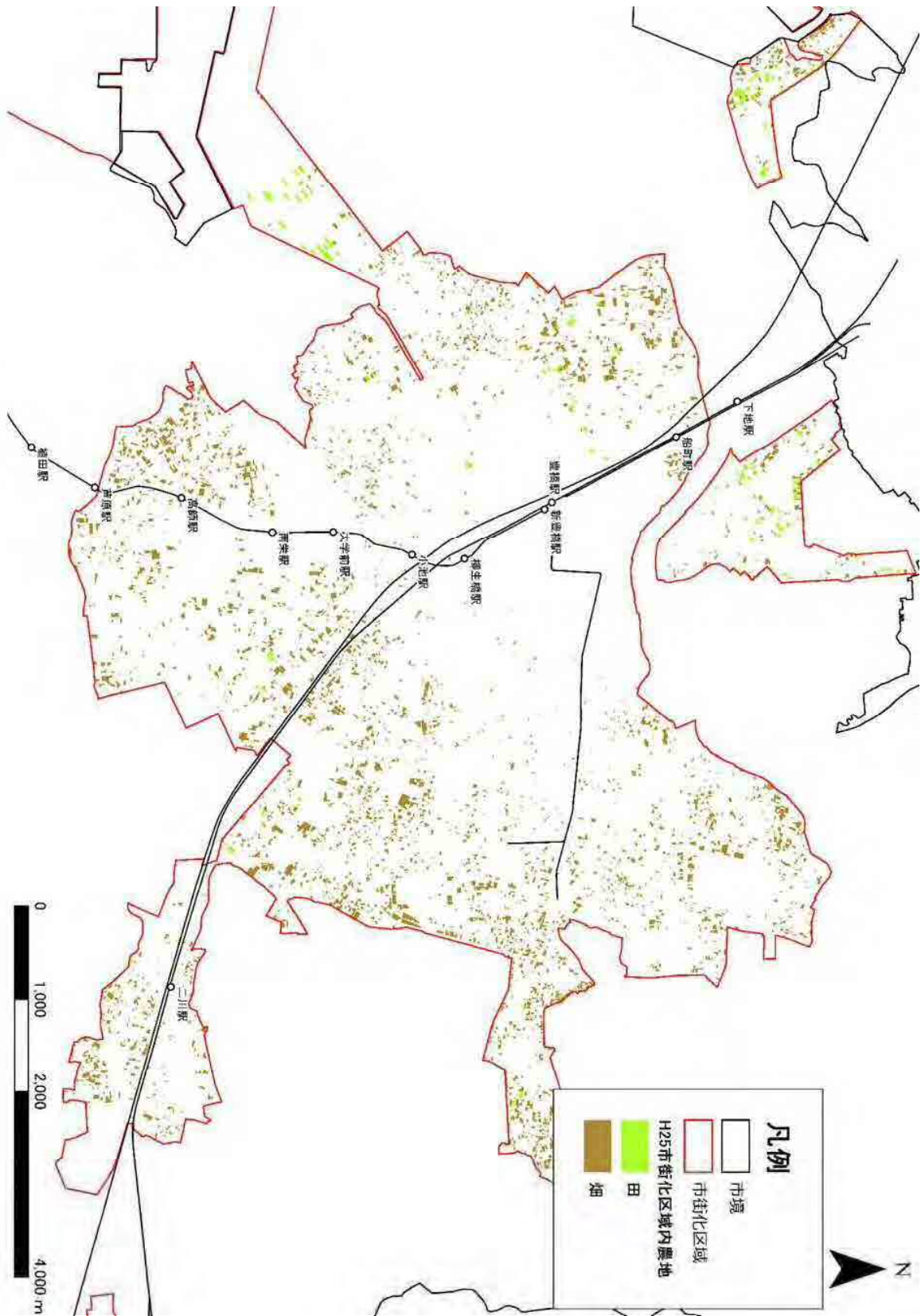
図表 市街化区域内における自然的土地利用の状況

年度	自然的土地利用(ha)						自然的土地 利用 合計
	農地			山林	水面	その他の 自然地	
	田	畑	合計				
H25	25.12	267.91	293.03	60.23	61.85	108.35	523.46
H30	14.64	204.25	218.89	49.29	59.6	119.92	447.7
増加率	-42%	-24%	-25%	-18%	-4%	11%	-14%

(資料:都市計画基礎調査)

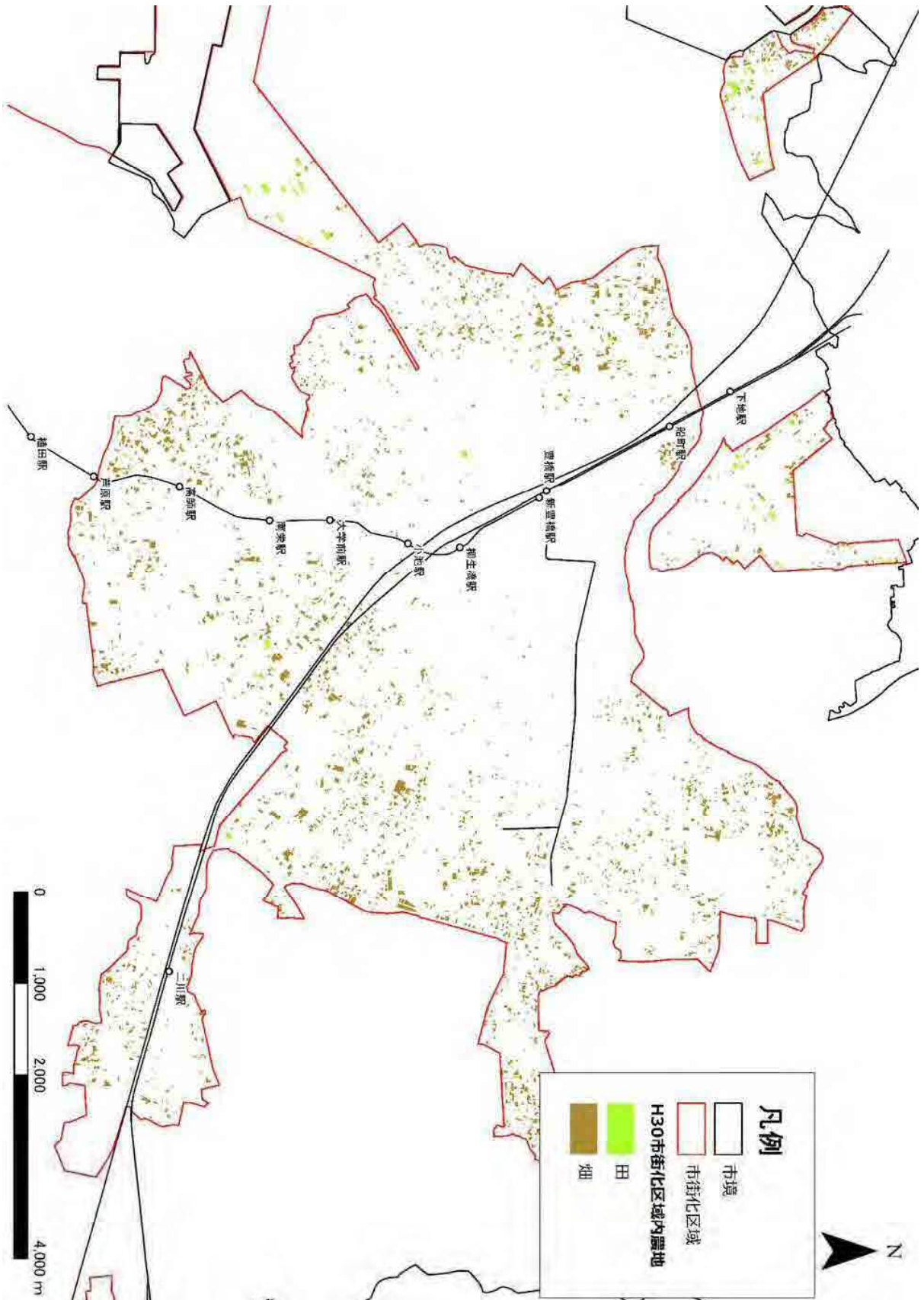
図表 市街化区域内農地の分布

(H25)



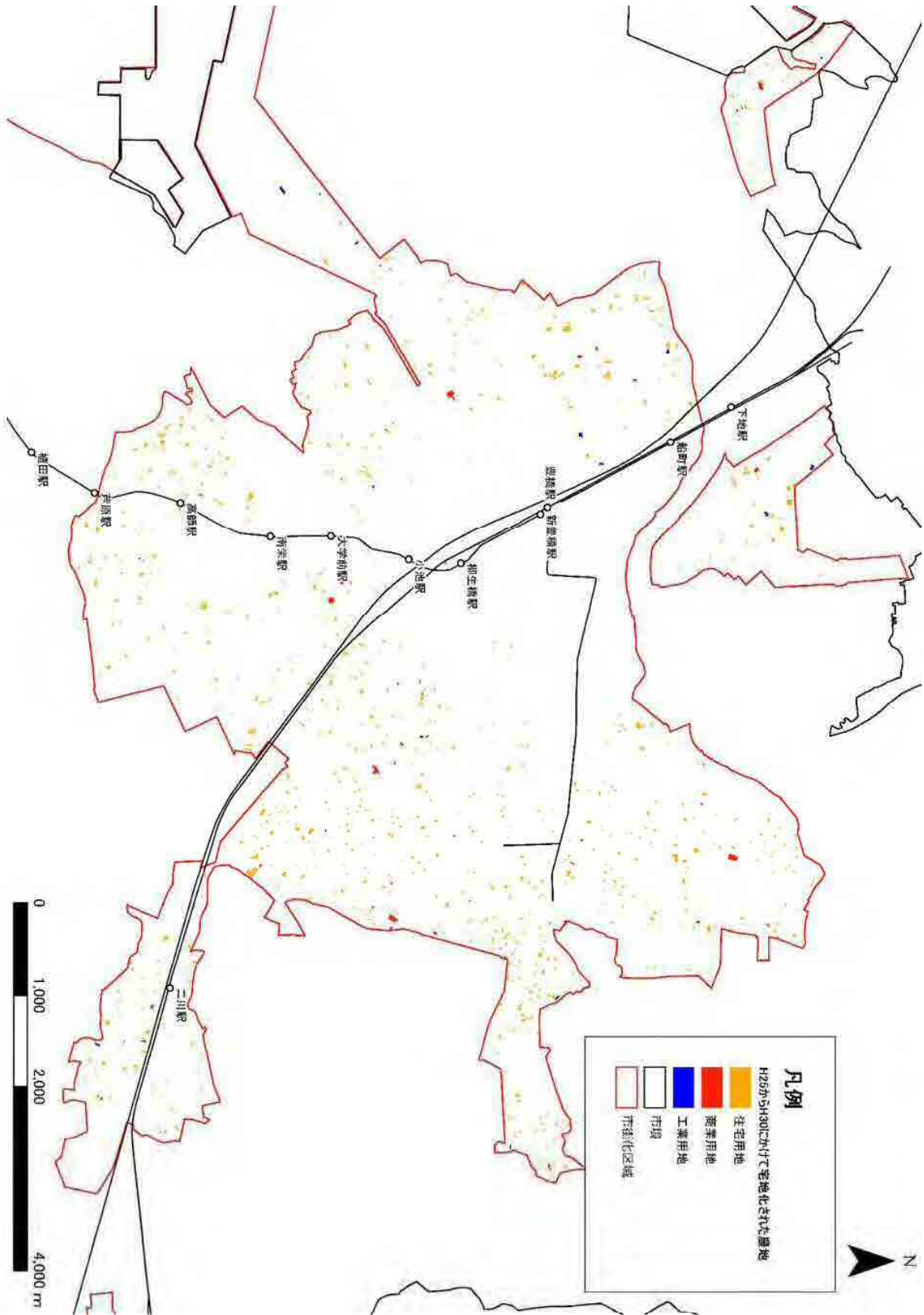
(資料:都市計画基礎調査)

(H30)



(資料:都市計画基礎調査)

図表 H25～H30 市街化区域内宅地化された農地の分布



(資料:都市計画基礎調査)

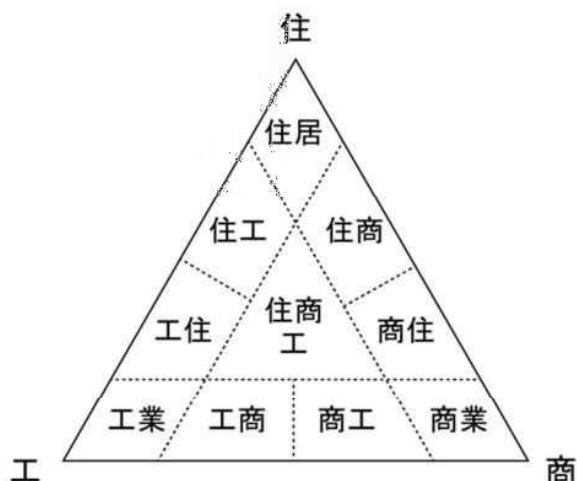
(5) 用途地域別の土地利用特性

- 中高層住居専用地域の一部や住居地域、準住居地域の一部では、住居系に特化した土地利用実態となっており、日常的な生活利便のための商業機能が不足している可能性がある。
- 商業系用途地域の一部において、十分な商業集積がされていない地域がみられる。
- 工業系用途地域の一部において、住居系土地利用への特化傾向がみられ、居住環境の保全課題が生じている可能性がある。

【次頁以降の三角グラフについて】

※三角グラフ

三角グラフは、都市計画基礎調査区（小ゾーン）の宅地面積（住宅地、商業地、工業地の合計面積）内におけるそれぞれの土地利用割合を算出して三角グラフ上にプロットし、その用途構成の特徴を把握するものです。



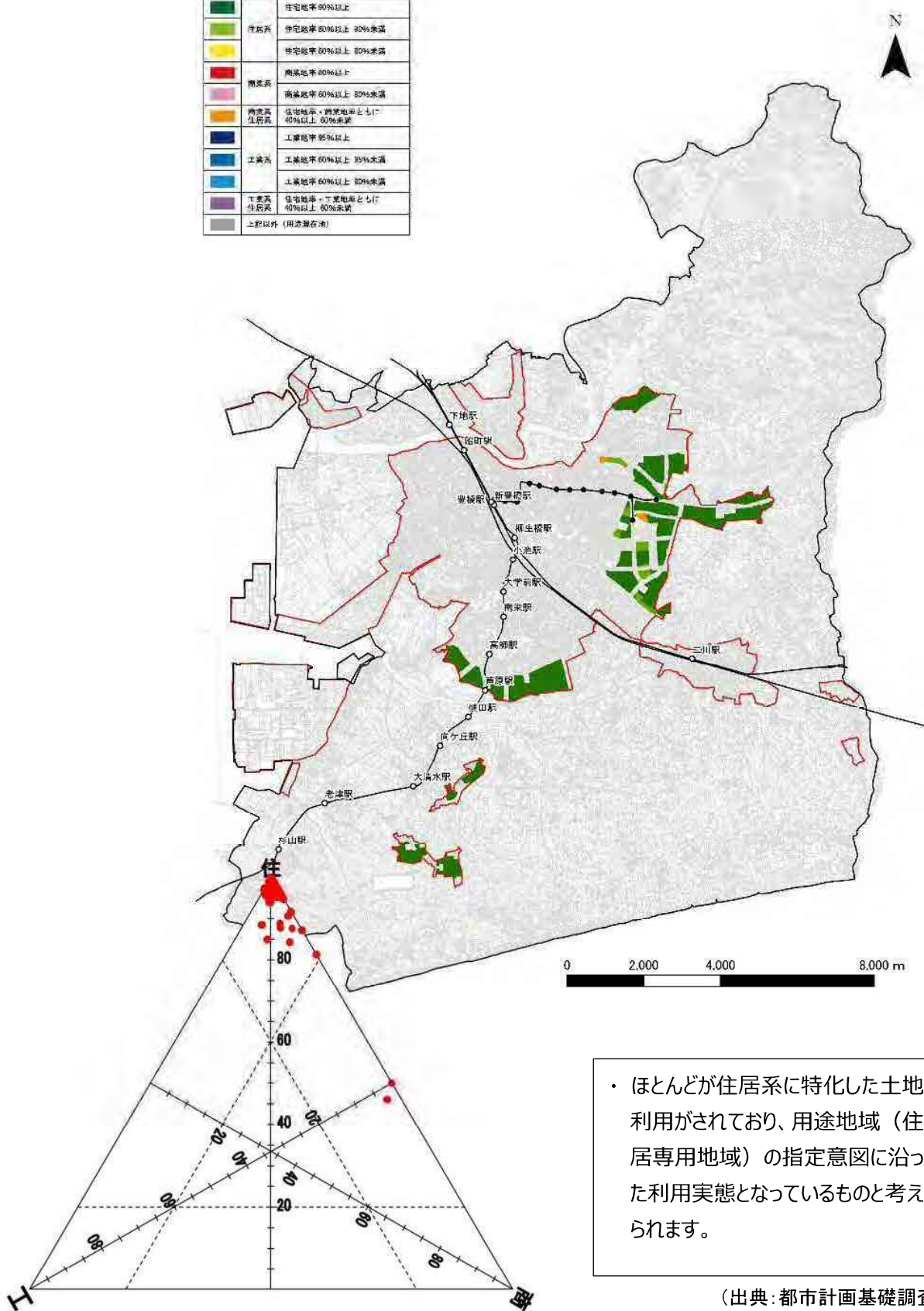
住宅地率 (%) = 住宅地面積 / 宅地面積 (住宅地、商業地、工業地の合計面積 × 100)

商業地率 (%) = 商業地面積 / 宅地面積 (住宅地、商業地、工業地の合計面積 × 100)

工業地率 (%) = 工業地面積 / 宅地面積 (住宅地、商業地、工業地の合計面積 × 100)

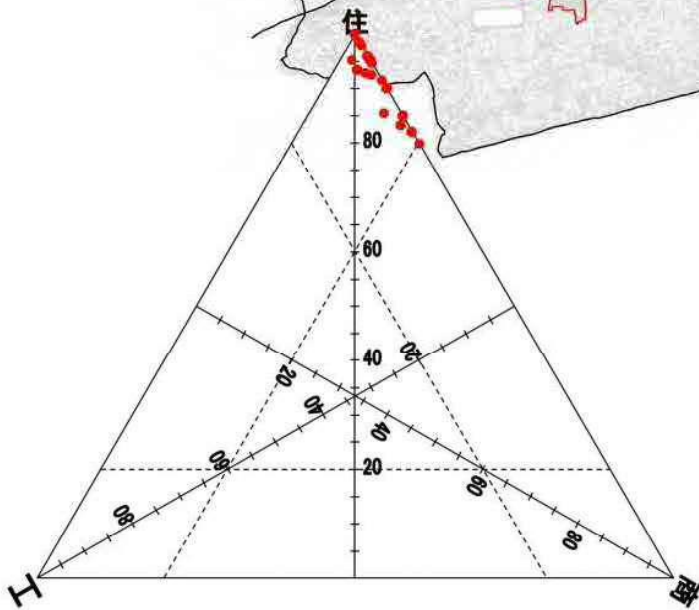
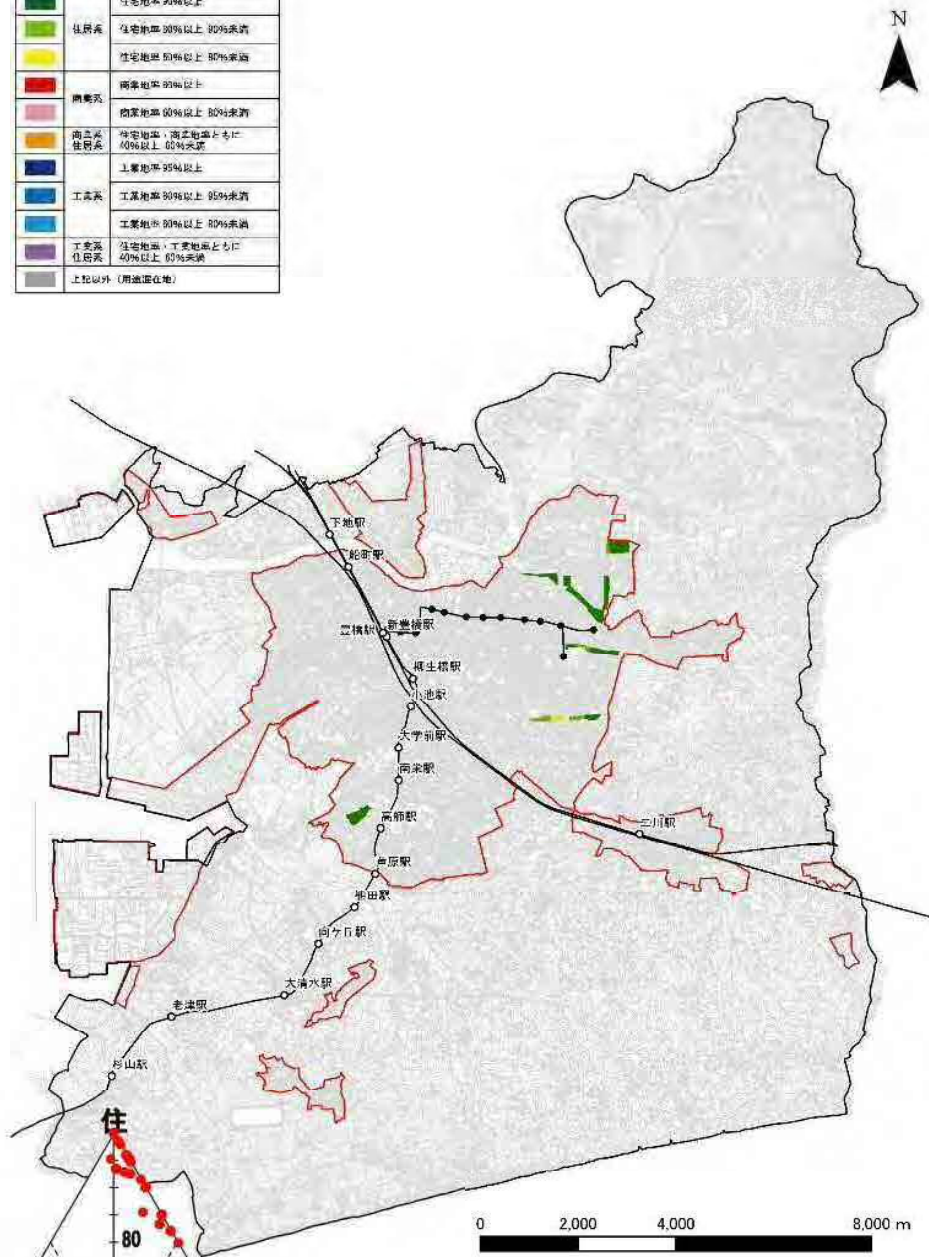
図表 第1種低層住居専用地域内の土地利用構成

凡 例	
	住宅地率90%以上
	住宅地率80%以上 90%未満
	住宅地率60%以上 80%未満
	商業地率80%以上
	商業地率60%以上 80%未満
	住宅地率・商業地率とも1/40%以上 80%未満
	工業地率95%以上
	工業地率80%以上 95%未満
	工業地率60%以上 80%未満
	住宅地率・工業地率とも1/40%以上 80%未満
	上記以外 (用途未定)



図表 第2種低層住居専用地域内の土地利用構成

凡 例	
	住宅地率 90%以上
	住居系 住宅地率 80%以上 90%未満
	住宅地率 60%以上 80%未満
	商業系 商業地率 90%以上
	商業地率 60%以上 90%未満
	商業系・住居系 住宅地率・商業地率ともに 40%以上 60%未満
	工業系 工業地率 95%以上
	工業系 工業地率 80%以上 95%未満
	工業系 工業地率 60%以上 80%未満
	工業系・住居系 住宅地率・工業地率ともに 40%以上 60%未満
	上記以外 (用途未定地)

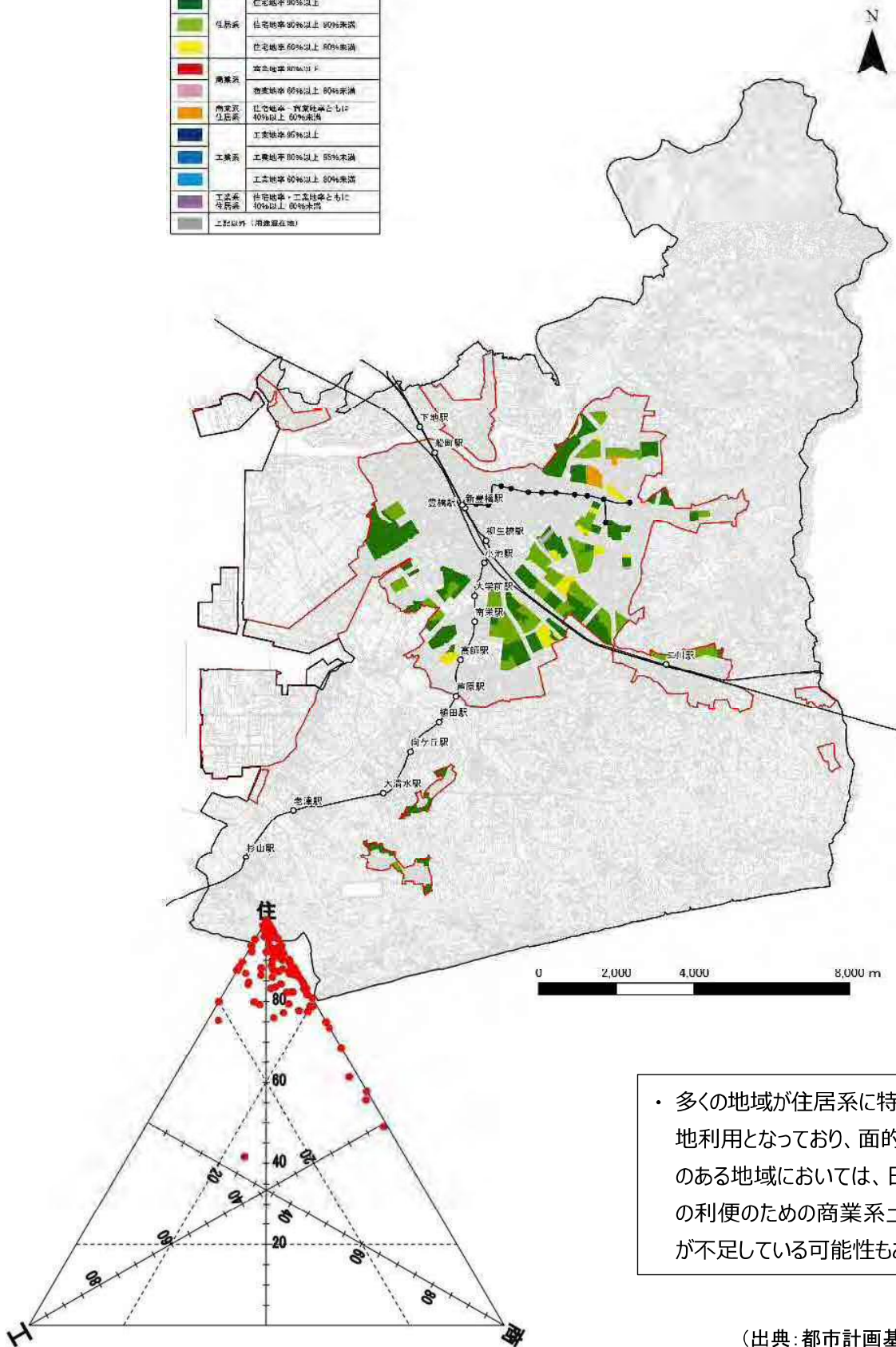


・ ほとんどが住居系に特化した土地利用となっており、用途地域（住居専用地域）の指定意図に沿った利用実態となっているものと考えられます。

(出典：都市計画基礎調査)

図表 第1種中高層住居専用地域内の土地利用構成

凡 例	
	住宅地率 95%以上
	住居系 住宅地率 90%以上 95%未満
	住宅地率 85%以上 90%未満
	商業系 商業地率 80%以上
	商業系 商業地率 65%以上 80%未満
	商業系 住宅地率・商業地率ともに 40%以上 60%未満
	工業系 工業地率 95%以上
	工業系 工業地率 80%以上 95%未満
	工業系 工業地率 65%以上 80%未満
	工業系 住宅地率・工業地率ともに 40%以上 60%未満
	工業以外 (用途未定地)

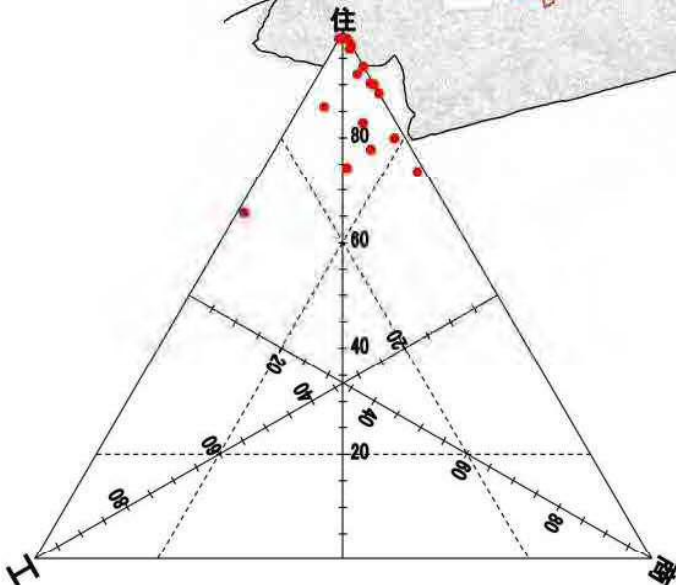
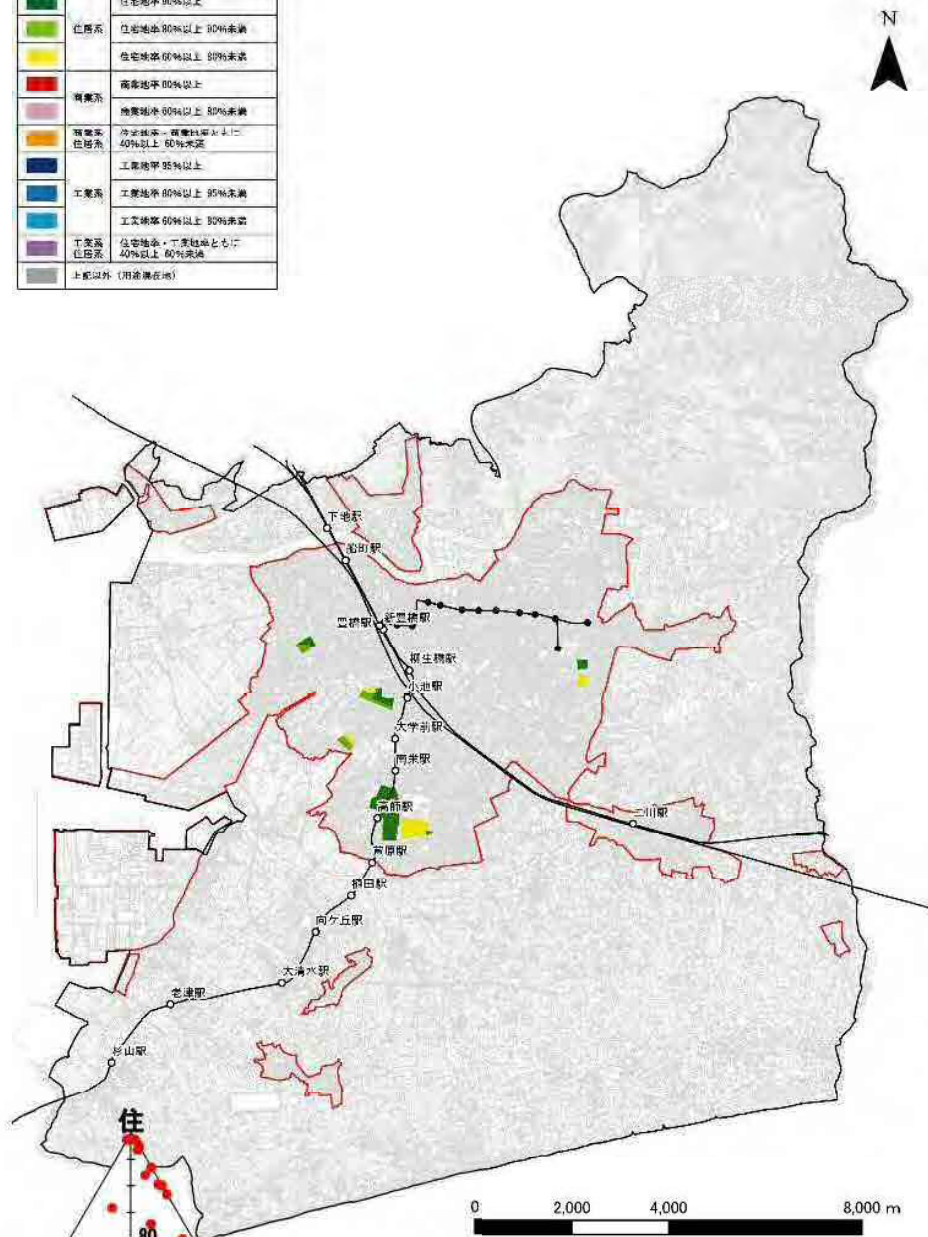


・多くの地域が住居系に特化した土地利用となっており、面的な広がりのある地域においては、日常生活の利便のための商業系土地利用が不足している可能性もあります。

(出典：都市計画基礎調査)

図表 第2種中高層住居専用地域内の土地利用構成

凡 例	
	住宅地率 80%以上
	住居系 住宅地率 80%以上 89%未満
	住宅地率 80%以上 89%未満
	商業系 商業地率 80%以上
	商業系 商業地率 80%以上 89%未満
	商業系・住居系 商業地率・住居地率ともに 40%以上 60%未満
	工業系 工業地率 80%以上
	工業系 工業地率 80%以上 89%未満
	工業系・住居系 住宅地率・工業地率ともに 40%以上 80%未満
	上記以外（用途未定地）

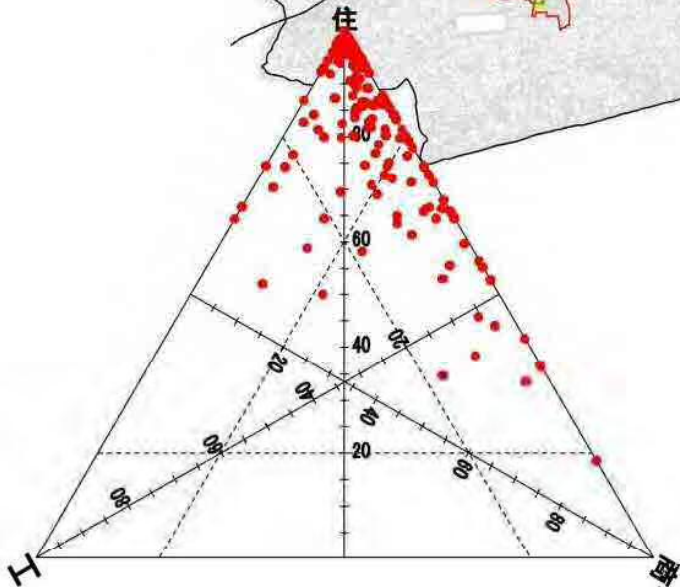
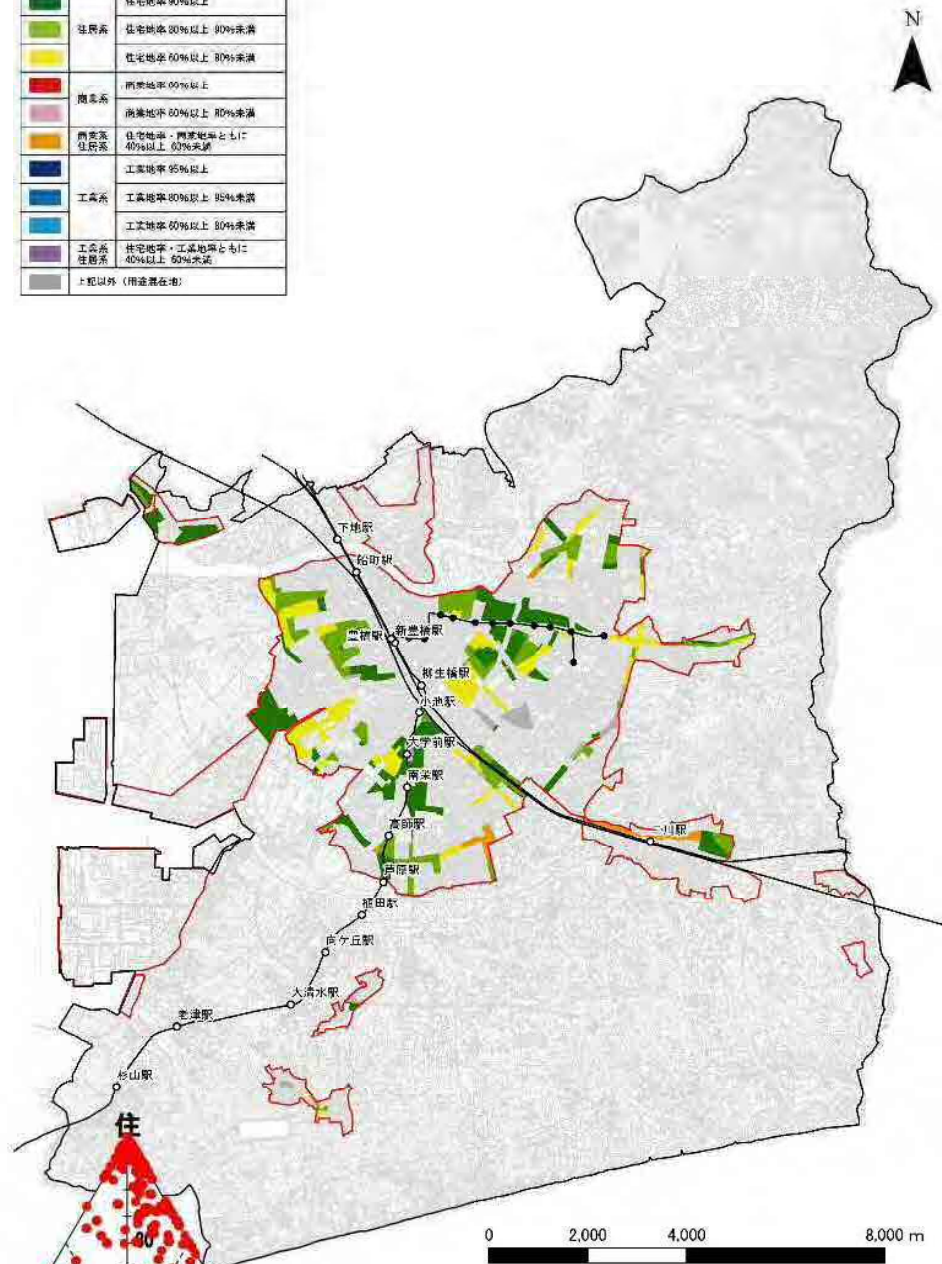


・多くの地域が住居系に特化した土地利用となっており、駅に近接した地域などにおいては、日常生活の利便のための商業系土地利用が不足している可能性があります。

(出典：都市計画基礎調査)

図表 第1種住居地域内の土地利用構成

凡 例	
	住宅地率 90%以上
	住居系 住宅地率 80%以上 90%未満
	住宅地率 60%以上 80%未満
	商業系 商業地率 60%以上
	商業系 商業地率 40%以上 60%未満
	商業系 住居系 住宅地率・商業地率ともに 40%以上 60%未満
	工業系 工業地率 95%以上
	工業系 工業地率 80%以上 95%未満
	工業系 工業地率 60%以上 80%未満
	工業系 住居系 住宅地率・工業地率ともに 40%以上 60%未満
	上記以外（用途未定地）

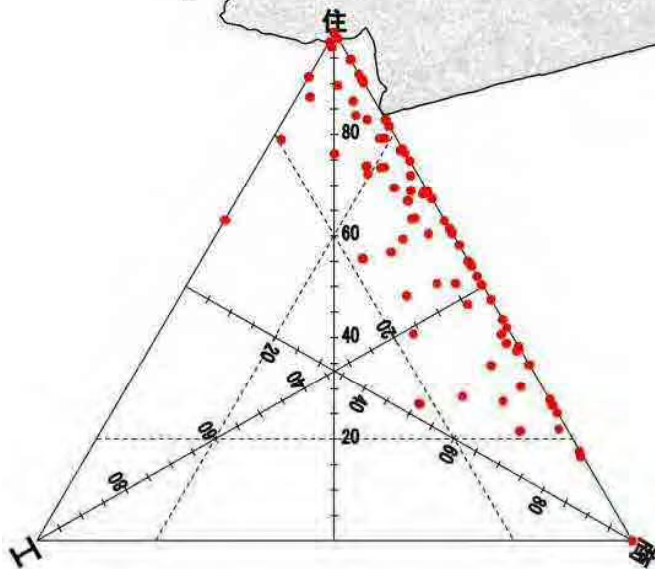
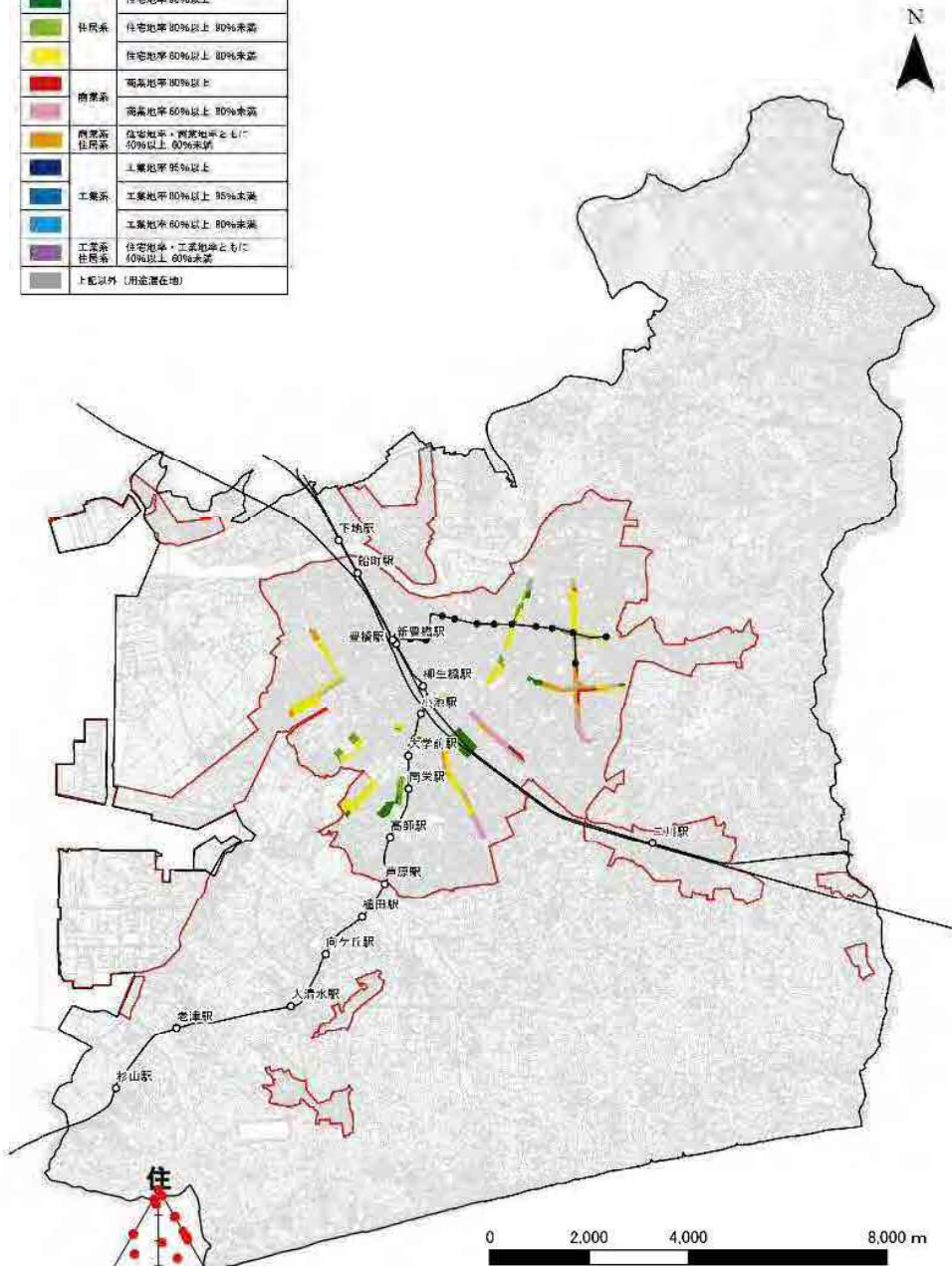


・多くの地域が住居系に特化した土地利用となっており、駅周辺や面的な広がりのある地域においては、日常生活の利便のための商業系土地利用が不足している可能性もあります。

(出典：都市計画基礎調査)

図表 第2種住居地域内の土地利用構成

凡 例	
	住宅地率80%以上
	住居系 住宅地率80%以上 80%未満
	住宅地率80%以上 80%未満
	商業系 商業地率80%以上
	商業系 商業地率60%以上 80%未満
	商業系・住居系 住宅地率・商業地率ともに50%以上 80%未満
	工業系 工業地率95%以上
	工業系 工業地率80%以上 95%未満
	工業系・住居系 住宅地率・工業地率ともに40%以上 80%未満
	上記以外 (用途未定地)

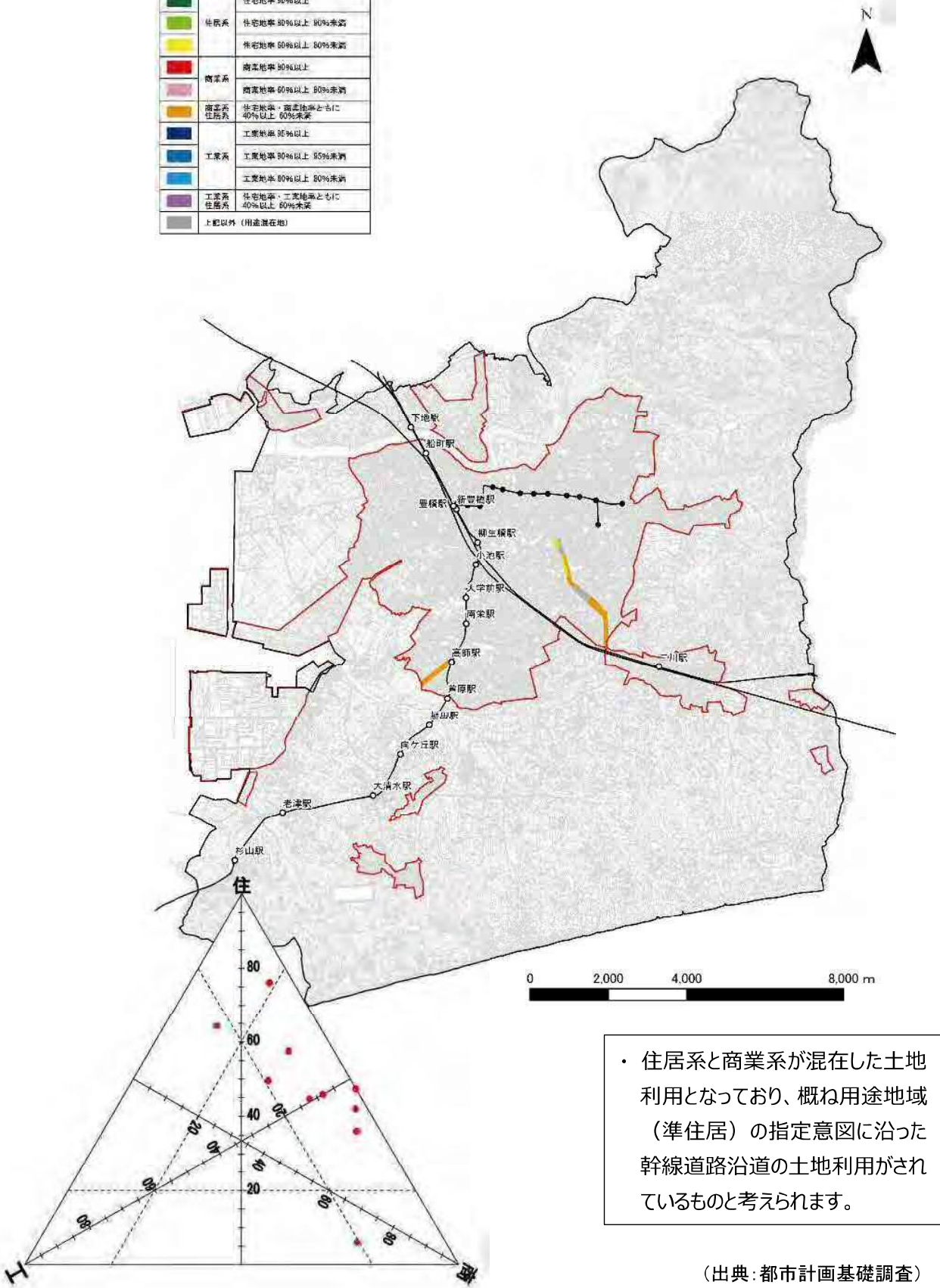


・ 住居系と商業系が混在した土地利用となっており、概ね用途地域（第2種住居）の指定意図に沿った土地利用がされていますが、一部には住居系の特化傾向が強い地域もあり、周辺に商業施設のない地域では、日常生活の利便のための商業系土地利用が不足している可能性もあります。

(出典: 都市計画基礎調査)

図表 準住居地域内の土地利用構成

凡 例	
	住宅地率 80%以上
	住居系 住宅地率 80%以上 80%未満
	住宅地率 60%以上 80%未満
	商業系 商業地率 80%以上
	商業系 商業地率 60%以上 80%未満
	商業系・住居系 住宅地率・商業地率ともに 40%以上 60%未満
	工業系 工業地率 80%以上
	工業系 工業地率 60%以上 80%未満
	工業系 工業地率 40%以上 60%未満
	上記以外 (用途未定地)

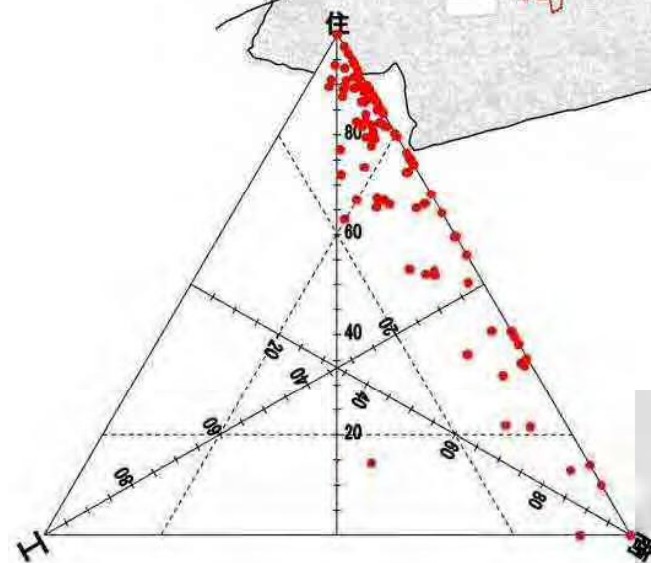
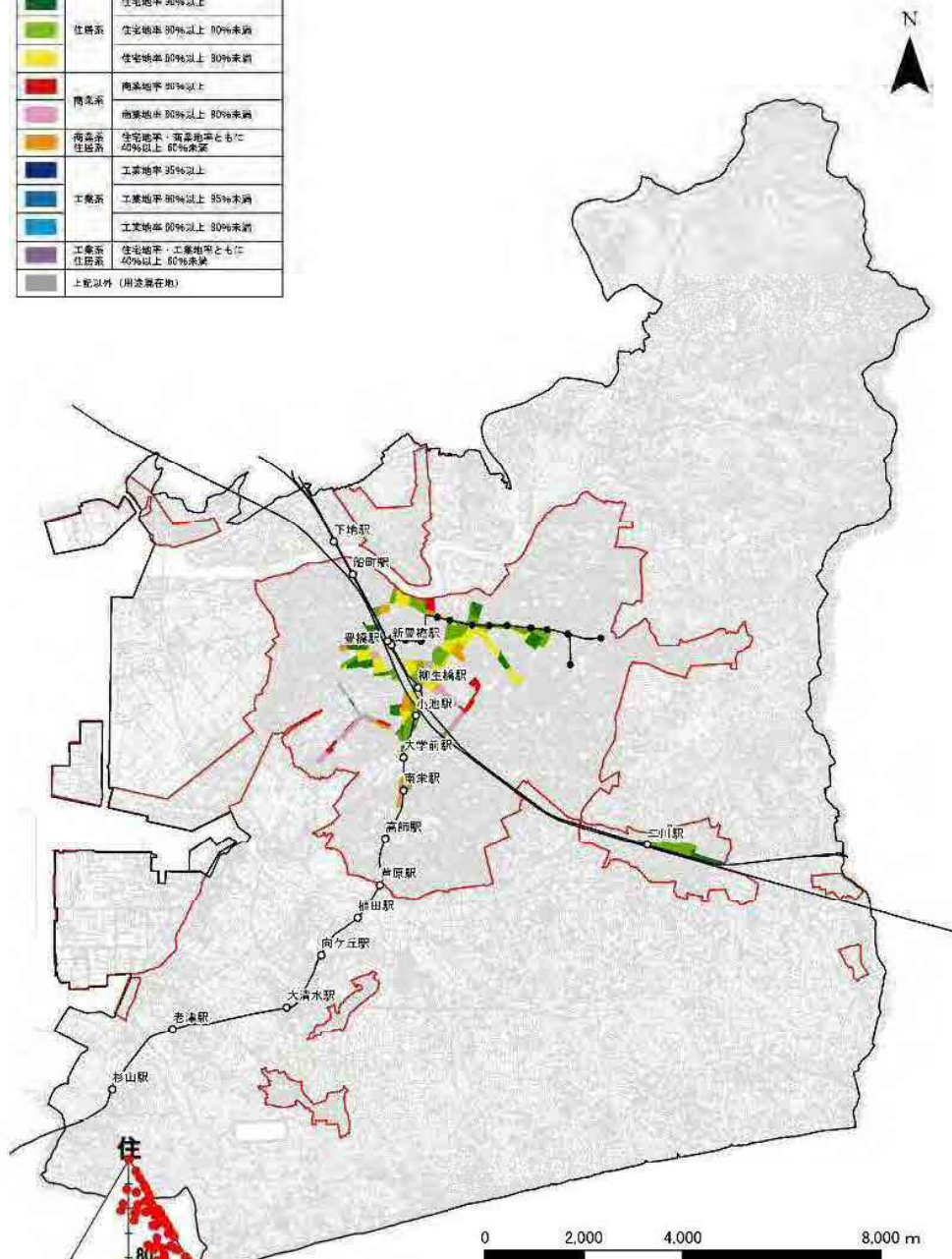


・ 住居系と商業系が混在した土地利用となっており、概ね用途地域（準住居）の指定意図に沿った幹線道路沿道の土地利用がされているものと考えられます。

(出典: 都市計画基礎調査)

図表 近隣商業地域内の土地利用構成

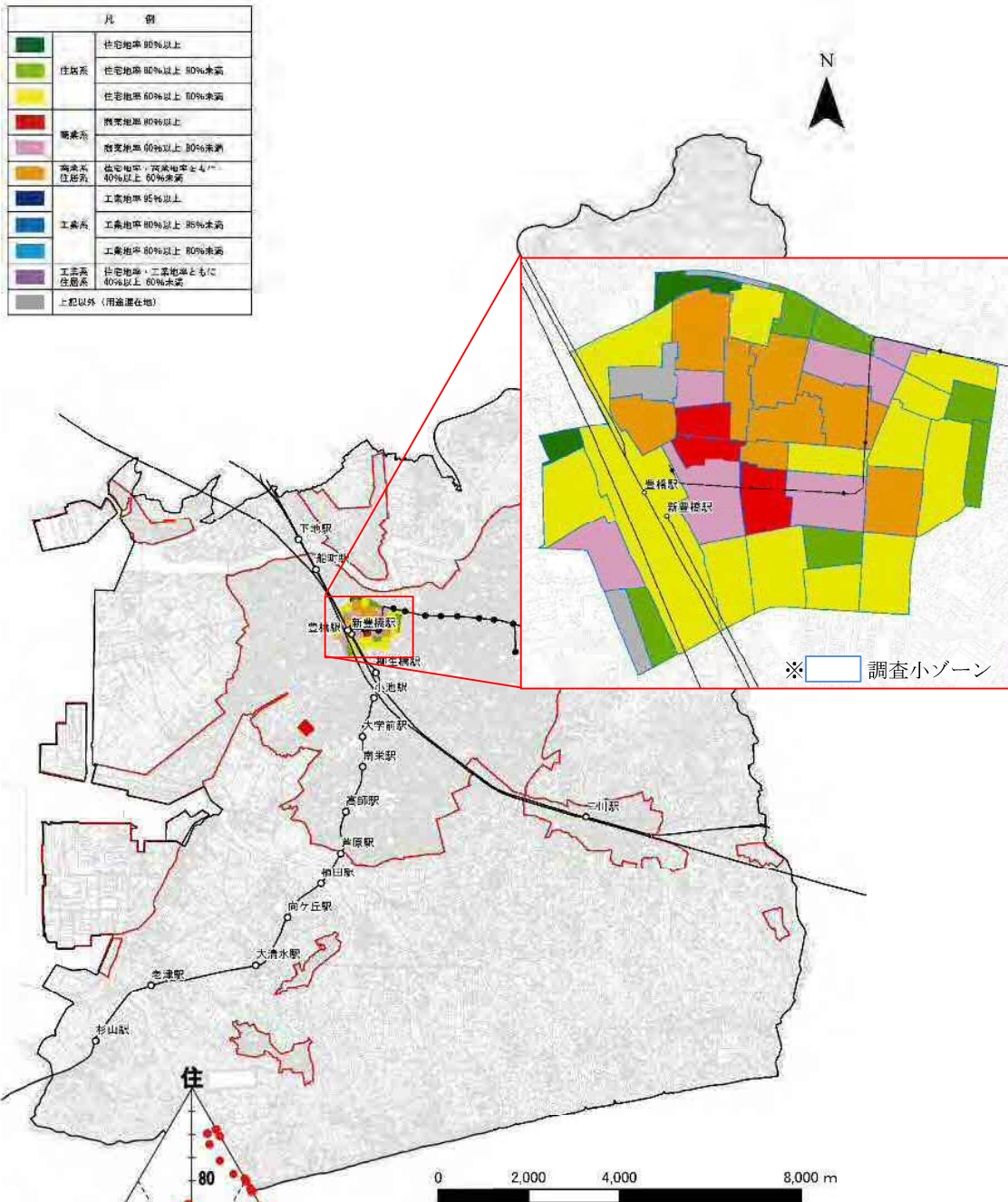
凡 例	
	住宅地率 30%以上
	住居系 住宅地率 30%以上 80%未満
	住宅地率 50%以上 80%未満
	商業系 商業地率 30%以上
	商業系 商業地率 50%以上 80%未満
	商業系 住居系 住宅地率・商業地率ともに 40%以上 80%未満
	工業系 工業地率 35%以上
	工業系 工業地率 50%以上 80%未満
	工業系 住居系 住宅地率・工業地率ともに 40%以上 80%未満
	上記以外 (用途未定地)



・ 商業系と住居系が混在した土地利用がされていますが、一部では住居系に特化した土地利用となっており、近隣商業地域の指定意図と乖離し、日常生活の利便のための商業集積が不足している可能性があります。

(出典：都市計画基礎調査)

図表 商業地域内の土地利用構成

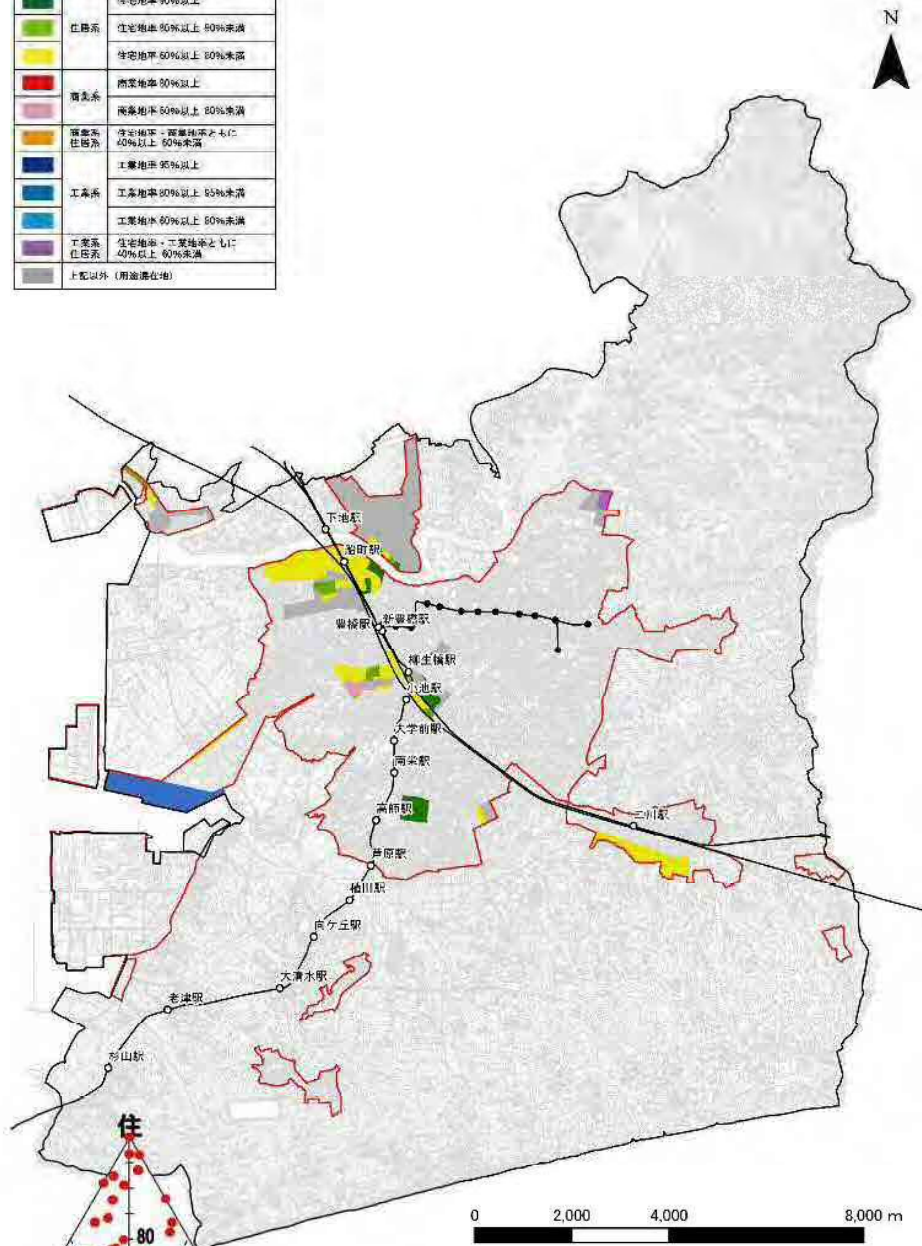


・ 商業系と住居系が混在した土地利用がされていますが、一部で住居系に特化した土地利用となっており、商業地域の指定意図と乖離し都市の拠点にふさわしい商業集積が不足している可能性があります。

(出典: 都市計画基礎調査)

図表 準工業地域内の土地利用構成

凡 例	
	住宅地率 90%以上
	住居系 住宅地率 90%以上 80%未満
	住宅地率 80%以上 60%未満
	商業系 商業地率 80%以上
	商業系 商業地率 80%以上 60%未満
	商業系・住居系 住宅地率・商業地率ともに 40%以上 60%未満
	工業系 工業地率 95%以上
	工業系 工業地率 80%以上 65%未満
	工業系 工業地率 60%以上 60%未満
	工業系・住居系 住宅地率・工業地率ともに 40%以上 60%未満
	上記以外 (用途未定地)

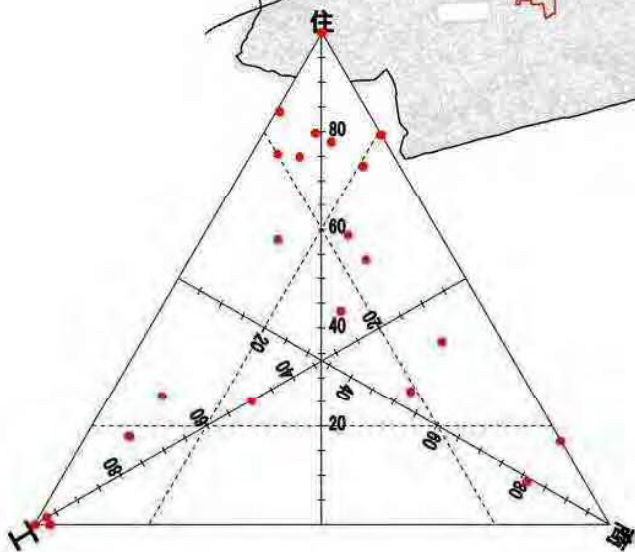
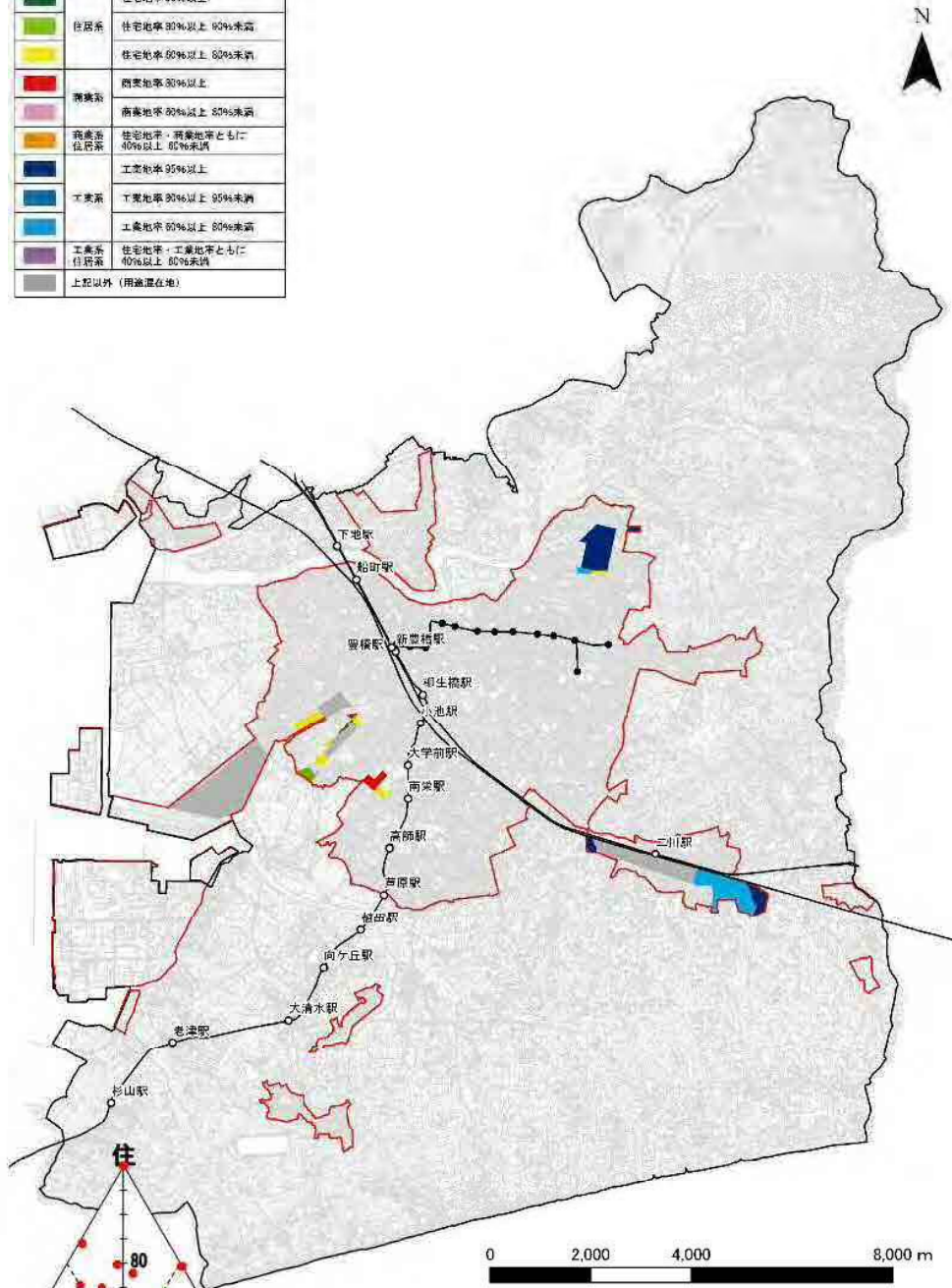


・ 工業系、商業系、住居系が混在した土地利用がされており、概ね用途地域（準工業）の指定意図に沿った利用実態といえる一方、一部の地域では住居系土地利用の特化傾向が強く、居住環境保全の課題が生じている可能性もあります。

(出典：都市計画基礎調査)

図表 工業地域内の土地利用構成

凡 例	
	住宅地率 90%以上
	住居系 住宅地率 80%以上 90%未満
	住宅地率 60%以上 80%未満
	商業系 商業地率 80%以上
	商業系 商業地率 60%以上 80%未満
	商業系・住居系 住宅地率・商業地率ともに 40%以上 80%未満
	工業系 工業地率 95%以上
	工業系 工業地率 80%以上 95%未満
	工業系 工業地率 50%以上 80%未満
	工業系・住居系 住宅地率・工業地率ともに 40%以上 80%未満
	上記以外（用途混在地）



・ 工業系、商業系、住居系が混在した土地利用がされており、一部の地域では住居系土地利用の特化傾向が強く、用途地域（工業地域）の指定意図と乖離が生じ、居住環境保全の課題が生じている可能性があります。

（出典：都市計画基礎調査）

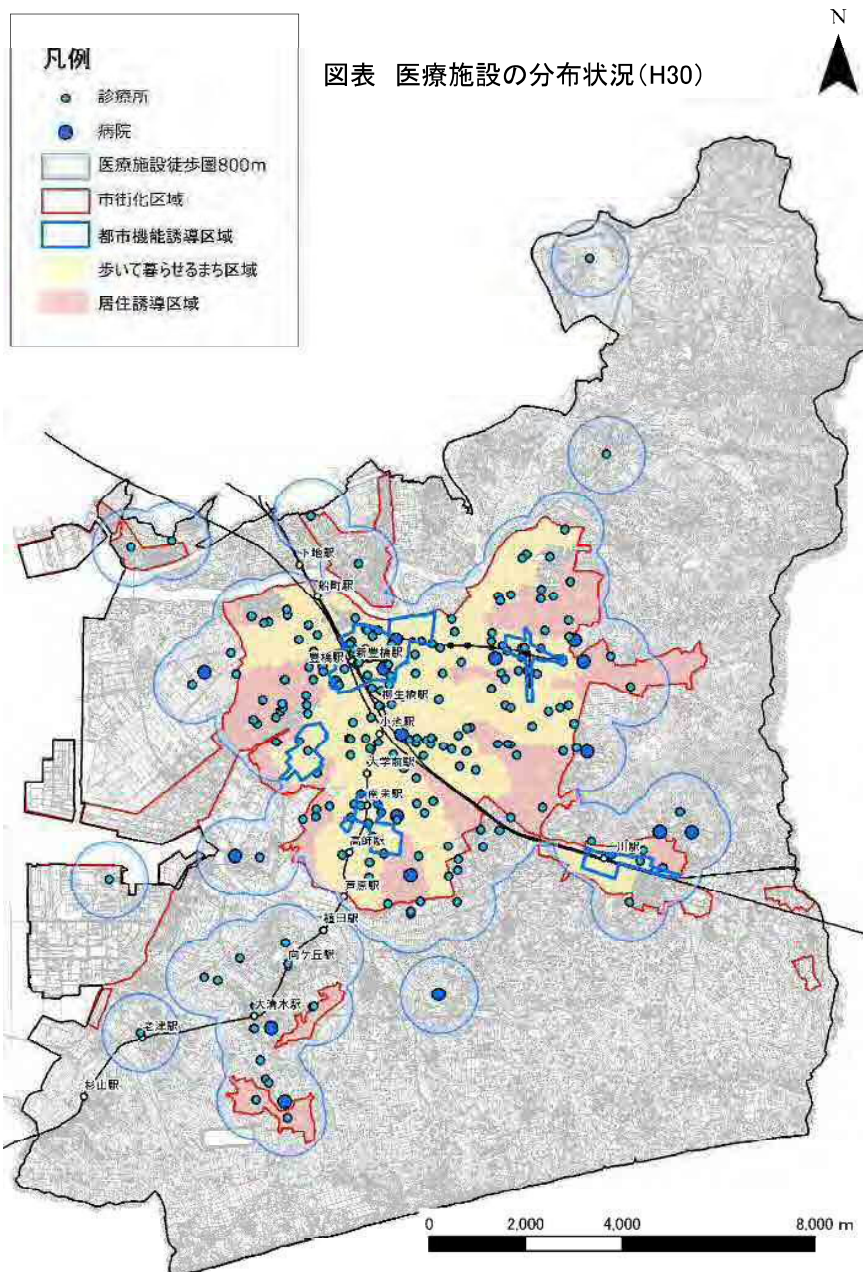
4. 都市機能

(1) 都市機能の分布

- 市街化区域においては、徒歩圏内に日常生活の利便を支える都市機能が立地している。
- 市街化調整区域においては、鉄道駅や主要集落周辺にこうした都市機能が立地している。

(医療施設)

- ・市域西部の臨海部周辺の一部の工業地を除いて、市街化区域は医療施設の徒歩圏域により概ねカバーされています。
- ・一方、市街化調整区域においては、駅周辺の一部を除いて徒歩圏域外の地域が多くを占めています。

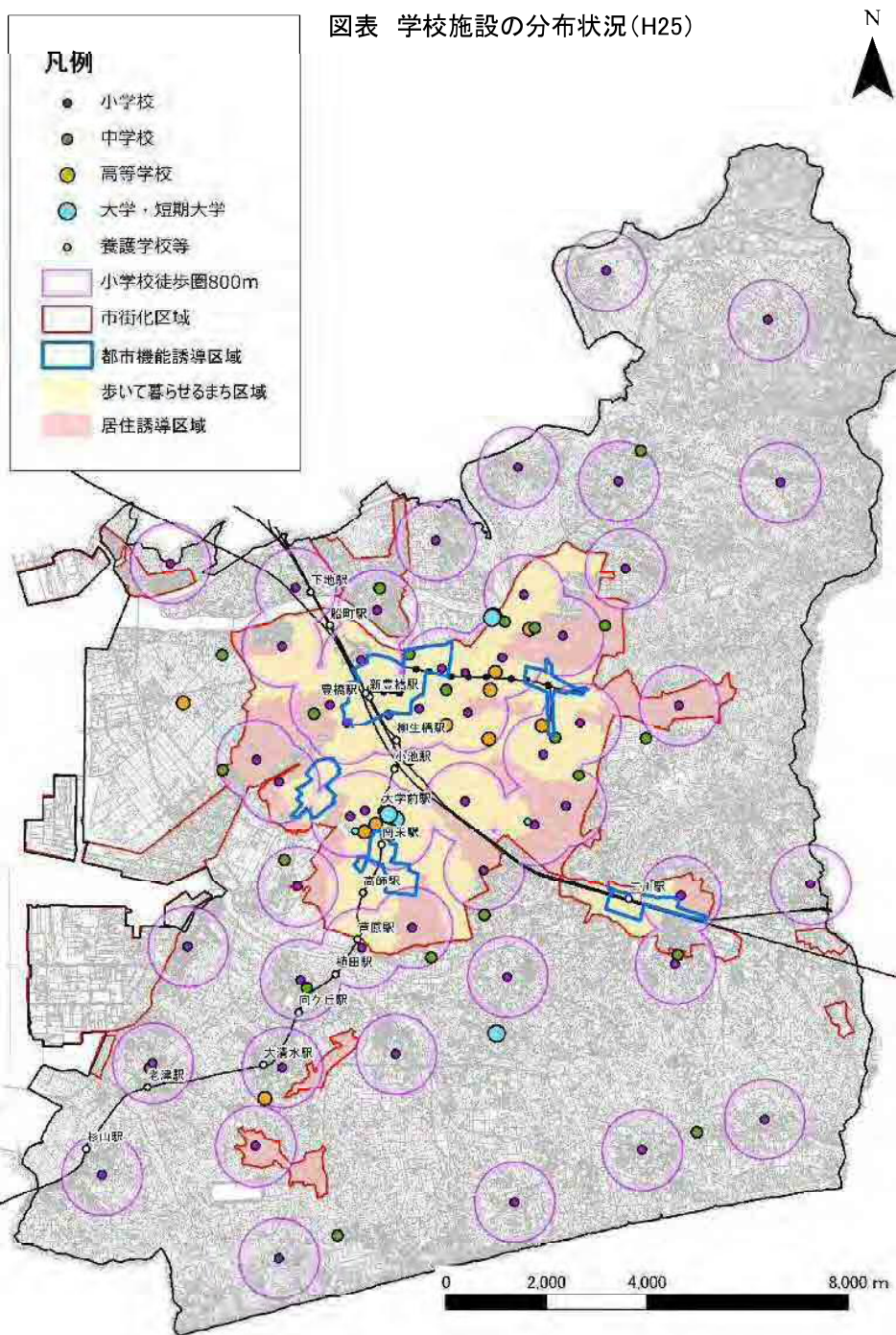


注) 図示する医療施設：病院（病床数20床以上）及び診療所（歯科を除く）

（出典：豊橋市医師会 HP）

(学校施設)

- ・市域西部の臨海部周辺の一部の工業地を除いて、市街化区域は小学校の徒歩圏域により概ねカバーされています。
- ・市街化調整区域においては、一部を除いて徒歩圏域外の地域が多くを占めています。主要な集落は小学校に関してはカバーされていますが、中学校に関しては徒歩では通学できない地域が多くみられます。



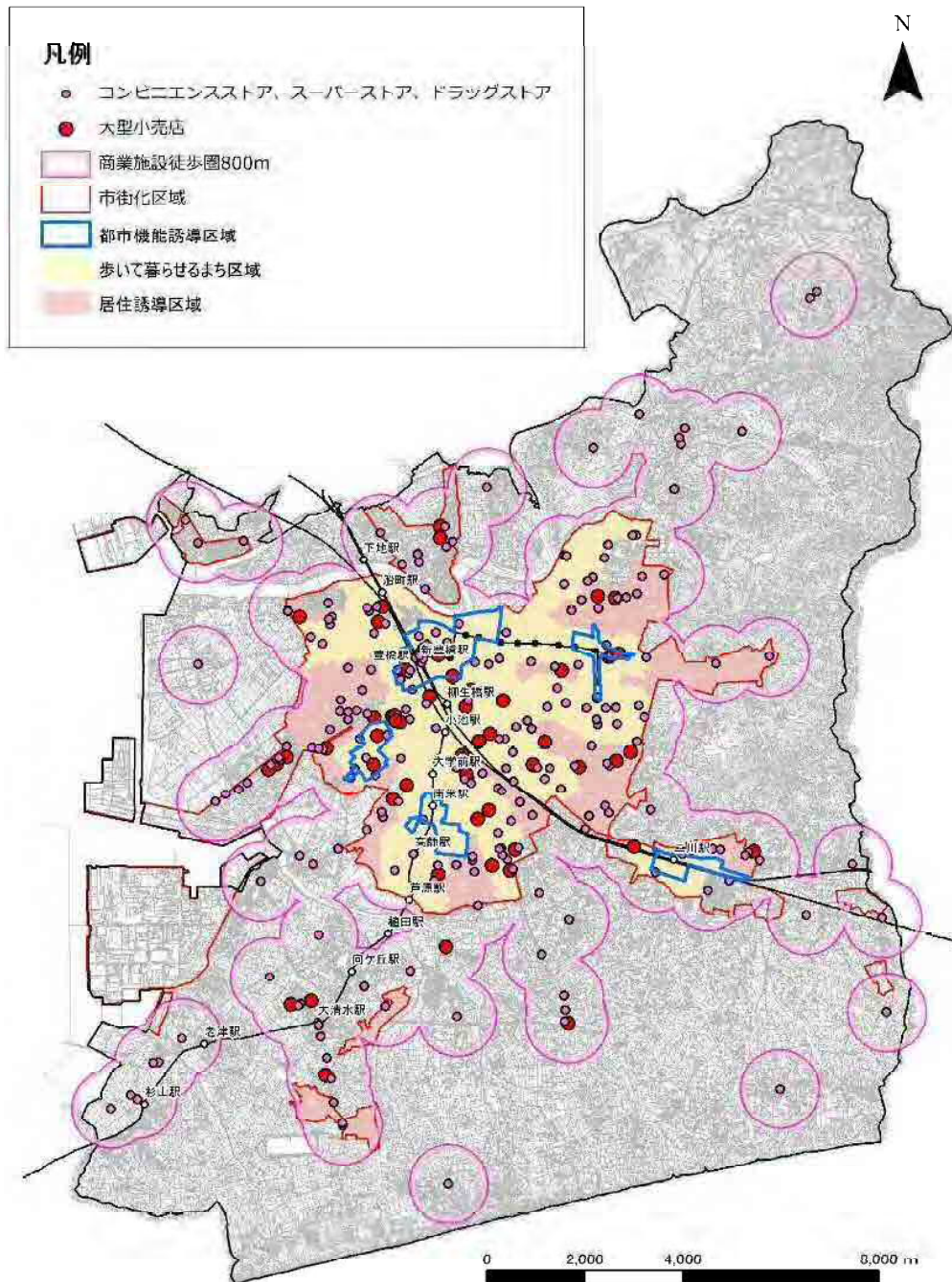
注) 図示する学校施設：小学校、中学校、高等学校、養護学校

(出典:国土数値情報)

(商業施設)

- ・ 臨海部の工業専用地域を除いて、市街化区域は商業施設の徒歩圏域により概ねカバーされています。
- ・ 市街化調整区域においては、コンビニエンスストア等の日常生活の利便を支える商業施設の徒歩圏域がカバーされていない地域が多く見られます。

図表 商業施設の分布状況



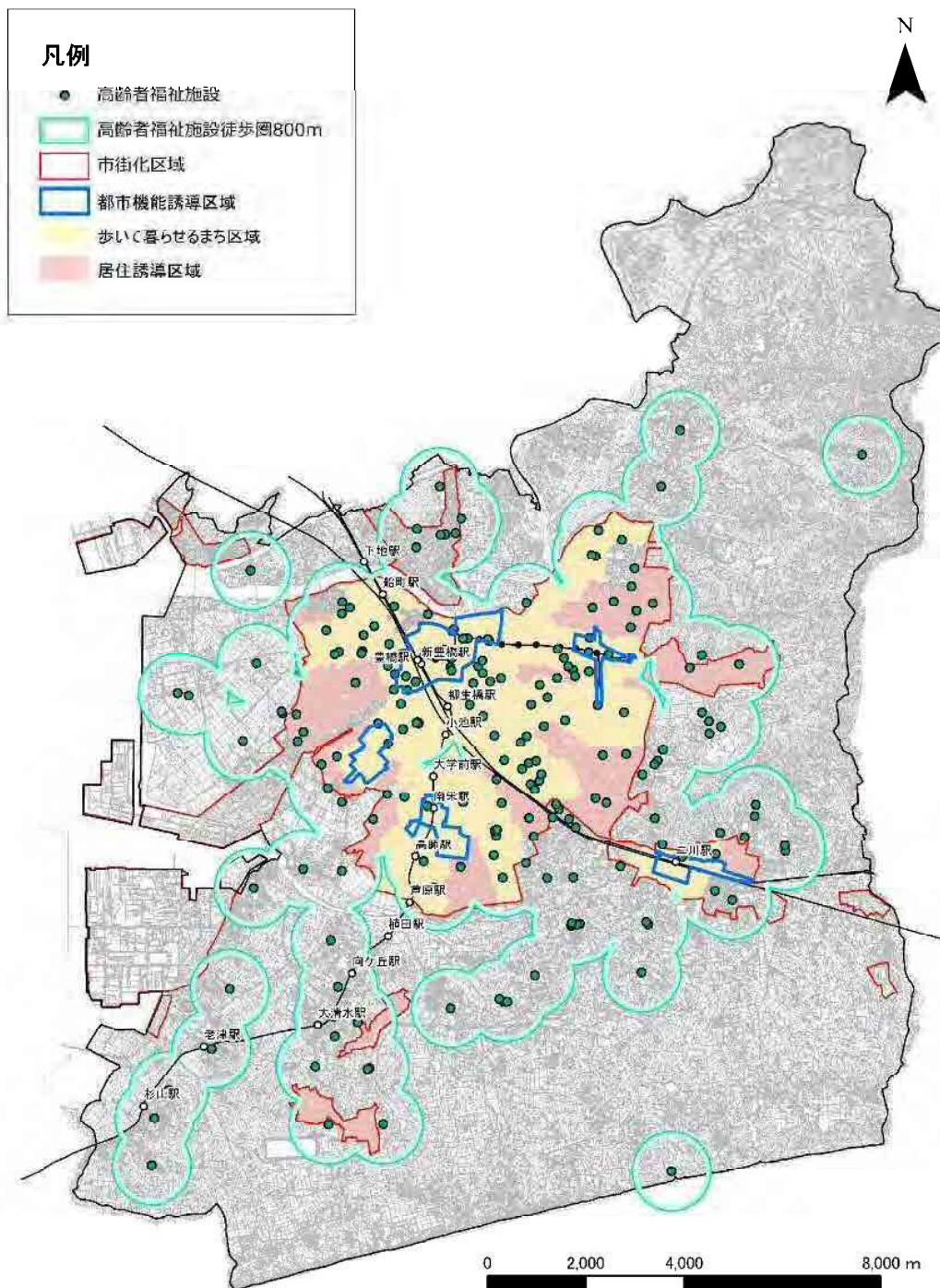
注) 図示する商業施設：大規模小売店（店舗面積 1,000 m²以上）、スーパーストア、ドラッグストア、コンビニエンスストア

(出典:全国大型小売店総覧 2020、iタウンページデータベース)

(福祉施設)

- ・ 臨海部の工業地の一部を除いて、市街化区域は高齢者福祉施設の徒歩圏域により概ねカバーされています。
- ・ 市街化調整区域においては、一部の鉄道駅周辺等を除いて徒歩圏域がカバーされていない地域が多く見られます。

図表 高齢者福祉施設の分布状況



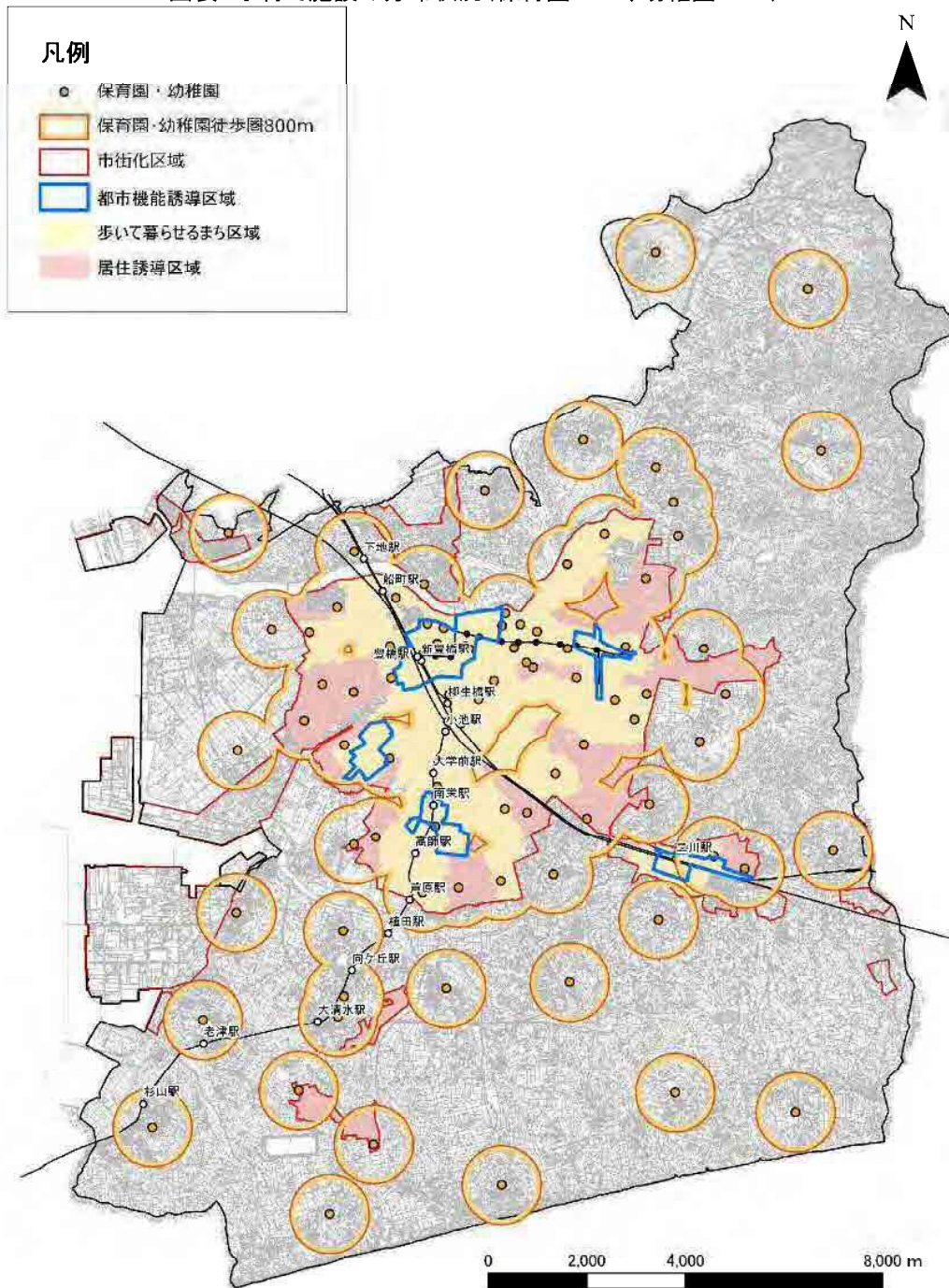
注) 図示する福祉施設：通所系施設、訪問系施設、小規模多機能施設

(出典：厚生労働省介護サービス情報公開システム)

(子育て支援施設)

- ・ 市域西部の臨海部周辺の一部の工業地を除いて、市街化区域は子育て支援施設の徒歩圏域により概ねカバーされています。
- ・ 市街化調整区域においては、徒歩圏域外の地域が多くを占めていますが、駅周辺や主要な集落はカバーされています。

図表 子育て施設の分布状況(保育園:H22、幼稚園:H27)



注) 図示する子育て支援施設：保育園、幼稚園

(出典:国土数値情報)

5. 産業構造

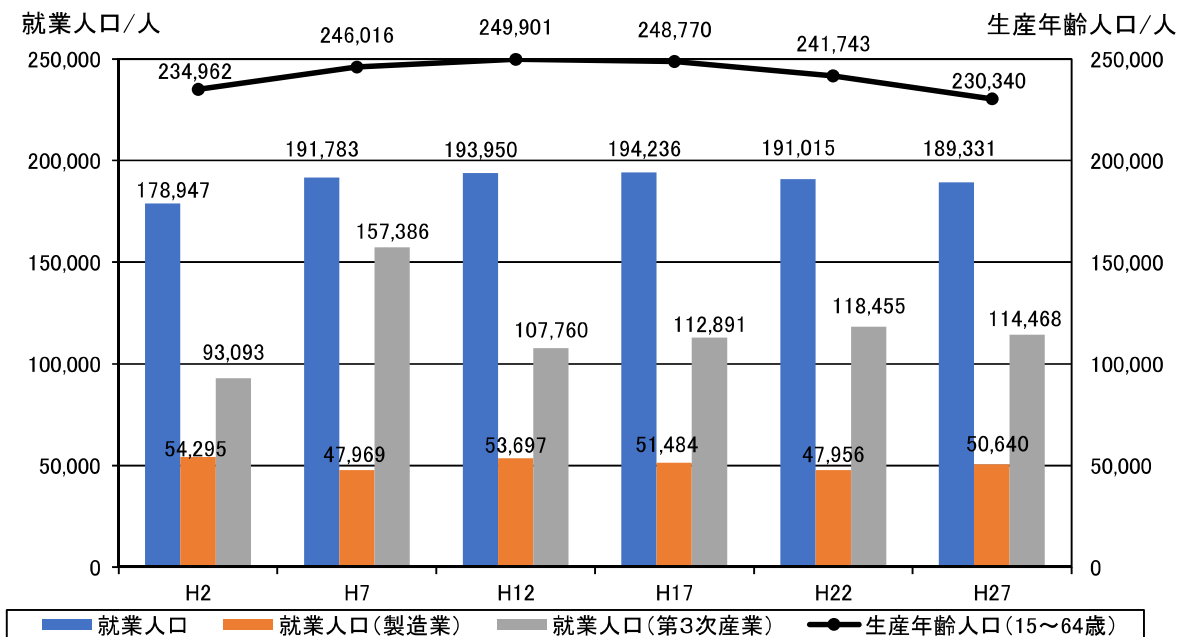
(1) 就業・従業構造

- 本市に常住する就業人口は、平成17年をピークに減少傾向にある。
- 本市で従業する従業人口は、平成7年をピークに減少傾向にある。6割強を占める第3次産業は概ね横ばい、3割弱を占める製造業については、従業人口、シェアともに減少傾向にある。

(就業人口・生産年齢人口)

- ・本市内に常住する就業者の平成2年～27年の25年間の推移を国勢調査によりみると、就業者総数は平成17年の194,236人をピークとして以降わずかに減少傾向にあり、これは本市の生産年齢人口の推移と概ね同様の傾向となっています。
- ・本市の代表的な産業である製造業及び第3次産業（サービス業等）について、就業人口の内訳をみると、製造業が概ね3割弱、第3次産業は概ね6割前後で推移しています。

図表 就業人口と生産年齢人口の推移



(出典:国勢調査)

図表 就業人口のうち本市の代表的な産業である製造業・第3次産業就業人口の占める割合の推移

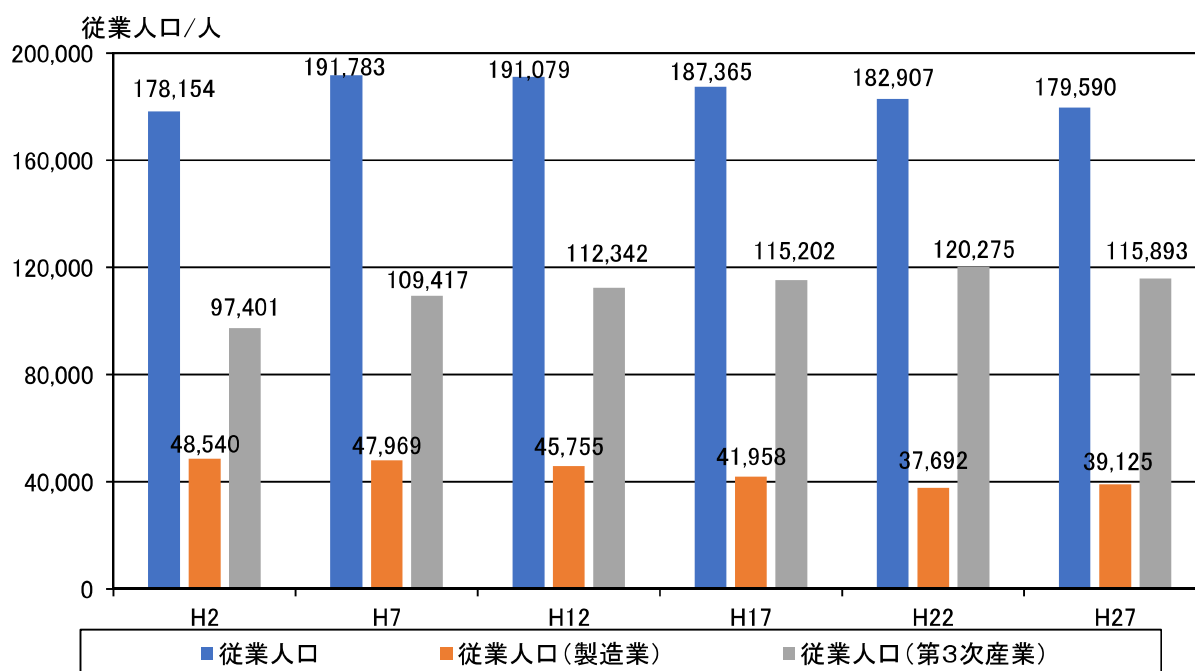
	H2	H7	H12	H17	H22	H27
製造業	30.3%	25.0%	27.7%	26.5%	25.1%	26.7%
第3次産業	52.0%	82.1%	55.6%	58.1%	62.0%	60.5%

(出典:国勢調査)

（製造業・第3次産業の従業人口）

- ・本市内で従業する就業者（従業人口）の平成2年～27年の25年間の推移を国勢調査によりみると、総数は平成7年の191,783人をピークとして以降わずかに減少傾向にあります。このうち製造業従業人口は過去25年間で約19%減となっている一方、第3次産業については約19%増となっています。
- ・本市の代表的な産業である製造業及び第3次産業（サービス業等）について、従業人口の内訳をみると、製造業が概ね2割台で、25年間で次第に比率が低下しています。第3次産業は次第に増加したのち、近年は概ね6割強で推移しています。

図表 従業人口の推移



（出典：国勢調査）

図表 従業人口のうち市の代表的な産業である製造業・第3次産業就業人口の占める割合の推移

	H2	H7	H12	H17	H22	H27
製造業	27.2%	25.0%	23.9%	22.4%	20.6%	21.8%
第3次産業	54.7%	57.1%	58.8%	61.5%	65.8%	64.5%

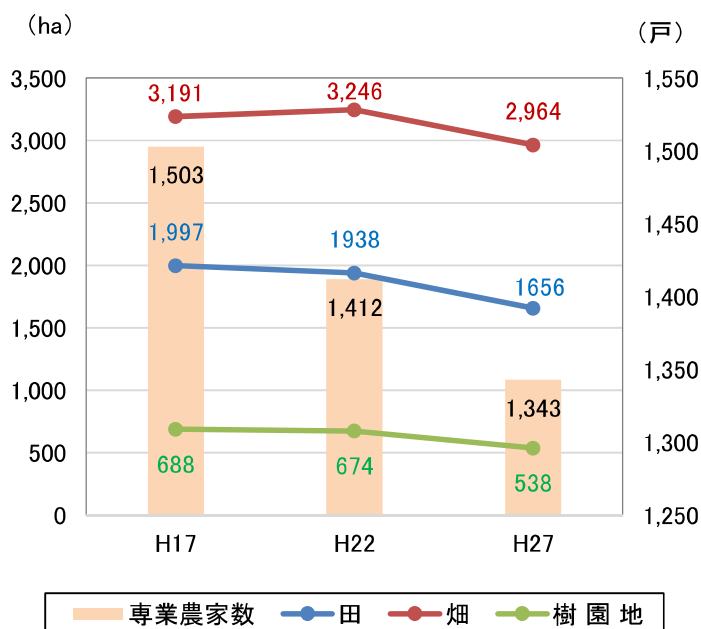
（出典：国勢調査）

(2) 農業の動向

- 県内有数の農業生産額を有するが、過去 10 年間では経営耕地面積、専業農家数、農業産出額ともに減少傾向にある。

- ・ 本市は、県内有数の農業産出額（農業粗生産額）を有していますが、その生産基盤となる経営耕地面積と専業農家数の平成 17～27 年の 10 年間の推移をみると、耕地面積、専業農家数ともに減少傾向にあります。
- ・ 経営耕地面積では、最も面積が多い畑が 10 年間で約 7%減、水田が 17%減、樹園地が 22%減となっています。専業農家数は約 11%減少、農業産出額も約 27%減となっています。

図表 経営耕地面積、専業農家数、農業産出額の動向



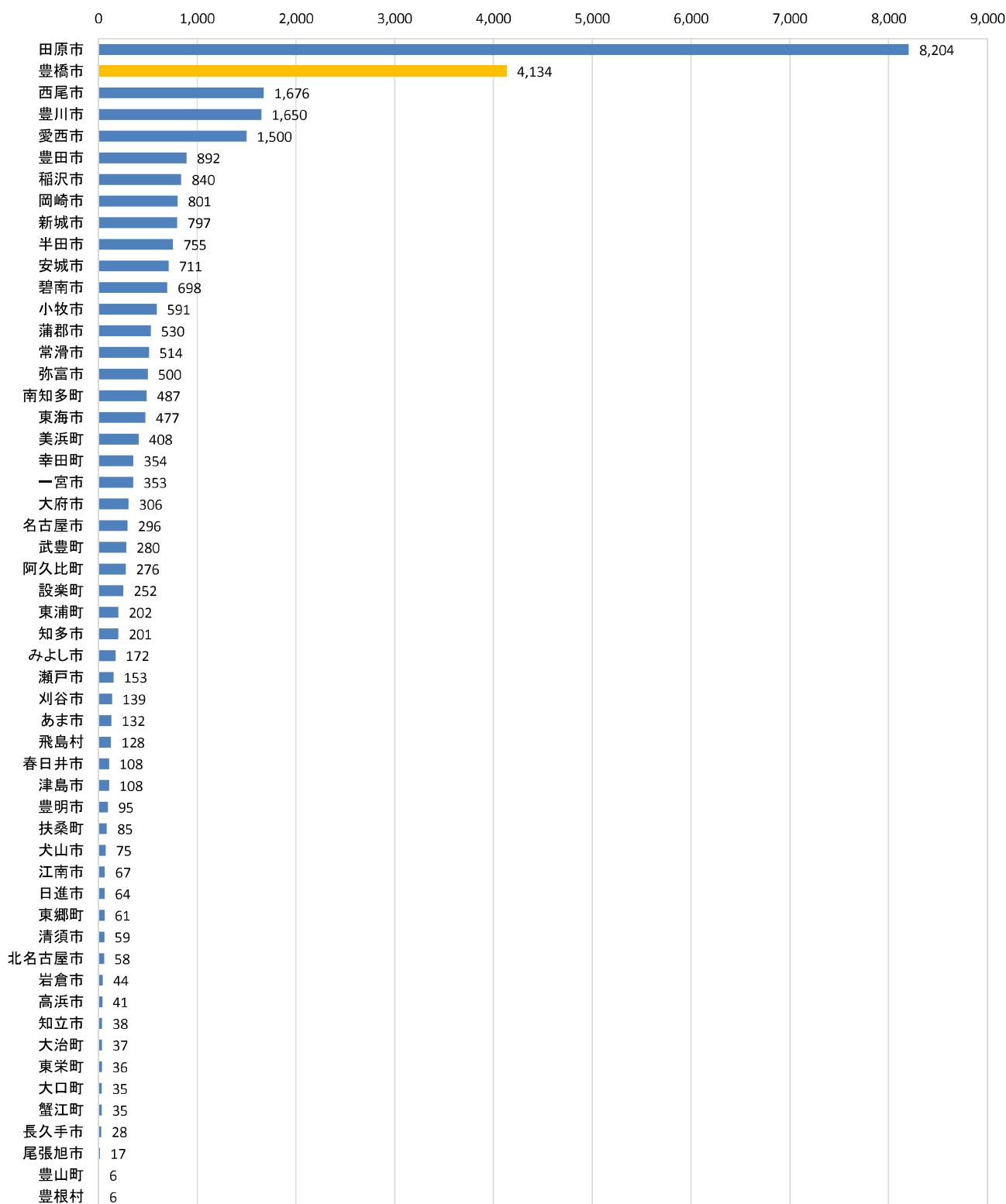
	H17	H22	H27	H17-27 減少率
田(ha)	1,997	1,938	1,656	17.1%
畑(ha)	3,191	3,246	2,964	7.1%
樹園地(ha)	688	674	538	21.8%
専業農家数 (件)	1,503	1,412	1,343	10.6%

	H7	H12	H17	H27	H7-27 減少率
農業産出額 (千万円)	5,688	5,293	4,952	4,134	27.3%

(出典: 愛知県農林業センサス)

図表 愛知県推計農業産出額(H29)

(円)

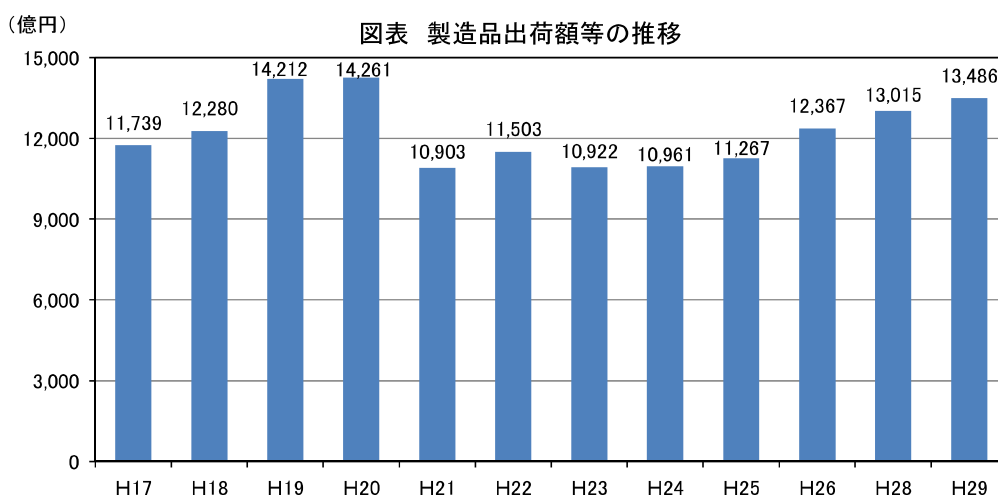


(出典:平成 29 年市町村別農業産出額(推計))

(3) 工業（製造業）の動向

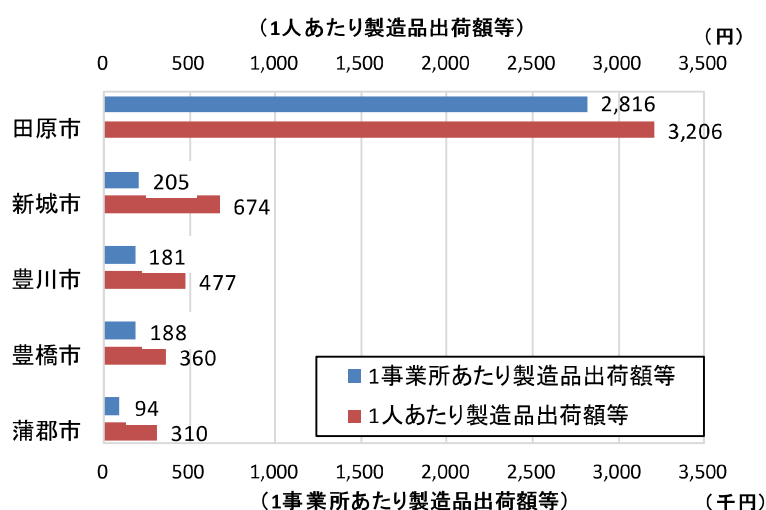
- 平成 20 年の「リーマンショック」の影響から徐々に回復し、製造品出荷額等は近年増加傾向がみられる。
- 従業者数は概ね横ばい、事業所数は減少傾向にある。

- ・製造品出荷額等を平成 17～28 年の 11 年間の推移で見ると、平成 20 年の 14,261 億円をピークに翌 21 年には 10,903 億円と約 24%急減したのち、徐々に回復傾向にあり、平成 28 年には 13,015 億円と、概ね 10 年前の水準と同等となっています。これは、いわゆる「リーマンショック」による世界的な経済動向の影響によるものと推測されます。
- ・東三河地域の都市の中では、1 事業所あたりの製造品出荷額等は田原市、新城市に次ぐ 3 番目であり、人口あたり製造品出荷額等は、蒲郡市に次いで低くなっています。
- ・従業者数は平成 19 年をピークにその後減少し、平成 21 年以降は約 3 万人強の水準で推移しています。また従業者 4 人以上の事業所数は平成 17 年以降減少傾向にあり、平成 17 年から約 17%減となっています。

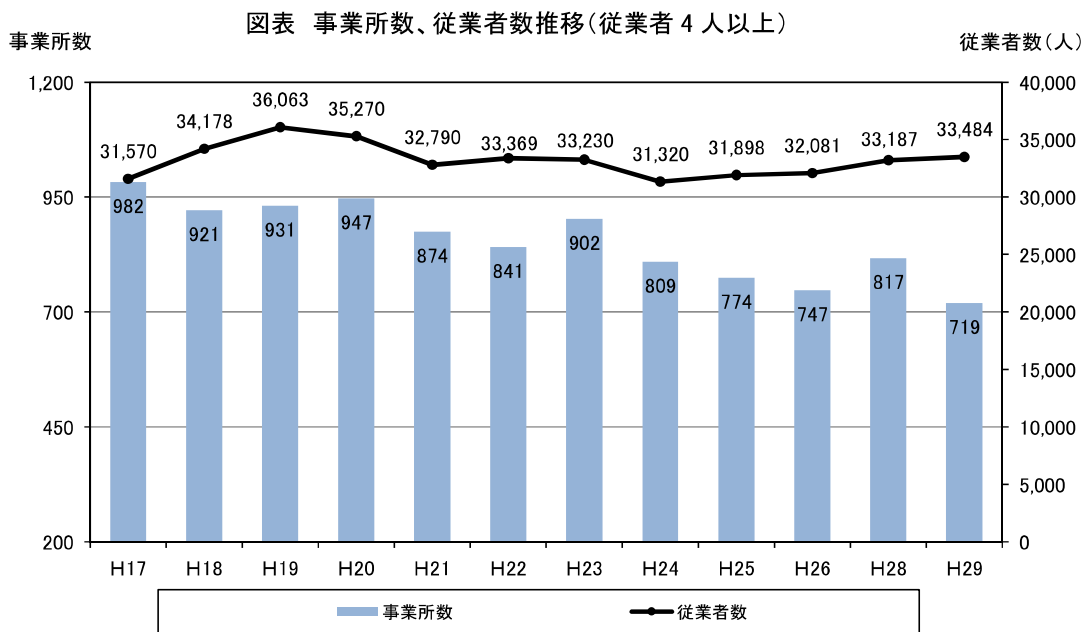


(出典:工業統計調査)

図表 1 事業所あたり及び人口あたりの製造品出荷額等



(出典:工業統計調査地域別統計表、国勢調査)



(出典:工業統計調査)

(4) 商業（卸売業・小売業）の動向

- 平成6年以降の長期的な動向として、商店数、従業者数、商品販売額ともに減少傾向にあるが、平成26年から28年にかけての直近の動向としては、卸売業の販売額を除いて増加に転じている。
- 小売吸引力は0.92で、東三河都市計画区域のなかでは蒲郡市、田原市と並ぶ水準。

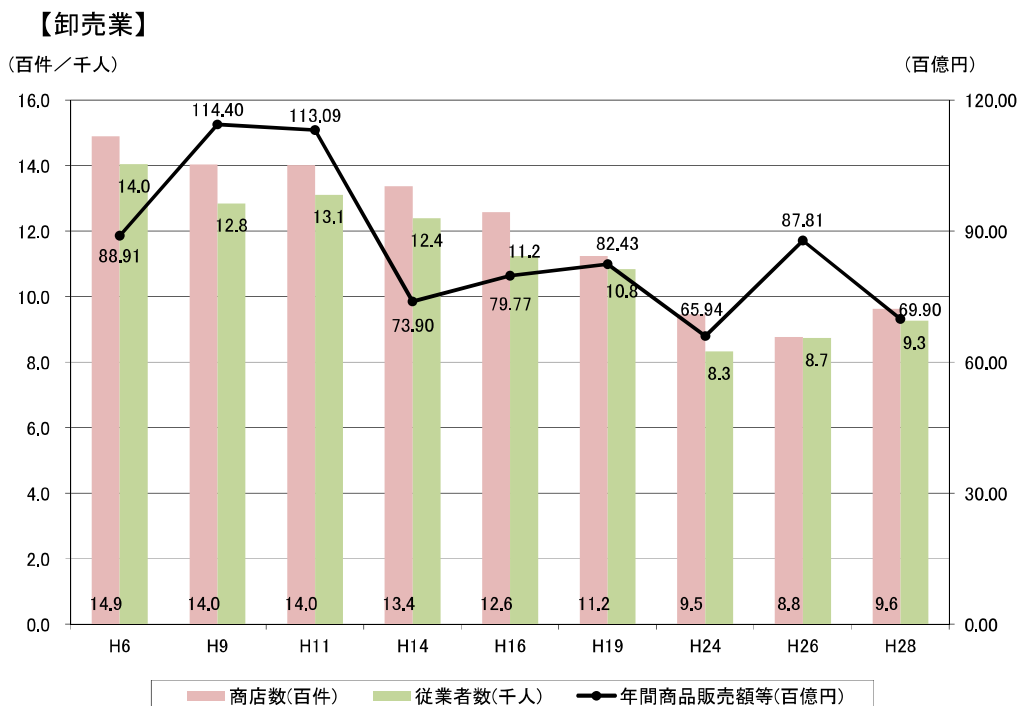
（卸売業）

- ・卸売業の商店数、従業者数、年間商品販売額の動向を、平成6年～24年の推移で見ると、いずれも減少傾向にあります。直近の動向を平成26～28年の比較で見ると、商店数は877件から963件と約10%の増加、従業者数は8,738人から9,260人と約6%の増加がみられます。一方商品販売額は、8,781億円から6,990百億円と、約20%減少しています。

（小売業）

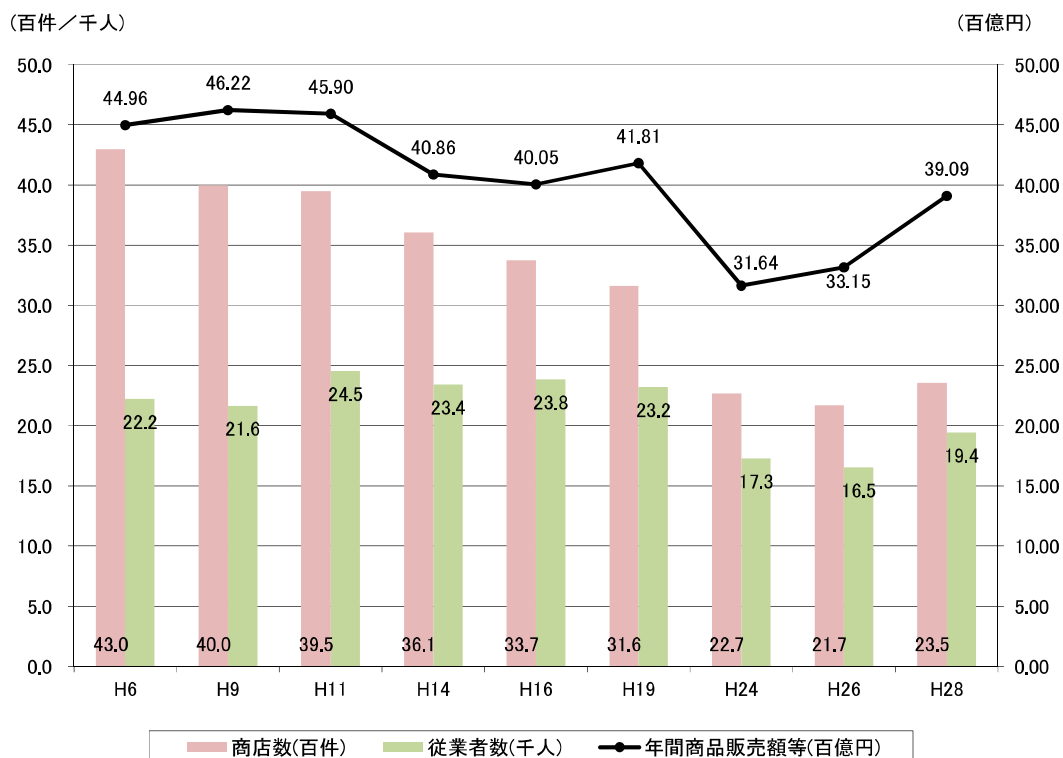
- ・小売業の商店数、従業者数、年間商品販売額の動向を、平成6年～24年の推移で見ると、卸売業と同様に減少傾向にあります。直近の動向を平成26～28年の比較で見ると、商店数は2,168件から2,354件と約9%、従業者数は16,520人から19,406人と約18%、商品販売額は3,315億円から3,909億円と約18%、それぞれ増加しています。
- ・小売吸引力は0.92で、東三河都市計画区域の市のなかでは蒲郡市、田原市と並ぶ水準となっています。

図表 商業（卸売業・小売業）の動向（従業者4人以上）



（出典：商業統計調査（H24は経済センサス））

【小売業】



(出典: 商業統計調査 (H24 は経済センサス))

注) 平成 19 年調査と 26 年調査では産業分類、調査方法の大幅な変更があった。また平成 24 年データは経済センサスによるもので、他の年度の商業統計調査と集計対象範囲が異なっている。これらのことから、平成 19、24、26 年の数値の比較はできない。

図表 小売吸引力の東三河都市比較(H28 小売年間商品販売額、H27 人口)

都市	小売り年間商品販売額 (百万円)	人口	1人あたり販売額 (円/人)	小売吸引力 指数
豊橋市	390,871	374,765	1,042,976	0.92
豊川市	184,679	182,436	1,012,295	0.89
新城市	37,525	47,133	796,151	0.70
蒲都市	84,872	81,100	1,046,510	0.92
田原市	65,396	62,364	1,048,618	0.93
愛知県	8,474,380	7,483,128	1,132,465	1.00

(出典: 商業統計調査、国勢調査)

注) 小売吸引力指数: 各市の人口 1 人当たりの小売販売額を県の 1 人当たりの小売販売額で除したものの。地域が買物客を引き付ける力を表す指標。指数が 1.00 以上の場合は、買物客を外部から引き付け、1.00 未満の場合は、外部に流出しているとみることができる。

図表 豊橋市における消費者購買動向(H21)

豊橋市		(%)													
区分	品目別	買	紳	婦	レ	電	準	下	園	化	最	台	食	贈	総
		回	士	人	ス	気	買	着	芸	粧	寄	所	料	答	合
		品	服	服	ジャ	製	回		品	品	品	品	品	品	品
買物場所	住まい近くの大型店・スーパー (中 学 地 区)	9.5	7.4	4.9	11.0	14.8	14.0	8.9	19.9	13.2	33.6	27.4	39.8	7.3	15.5
	(中 学 地 区)	7.7	8.9	5.8	4.7	11.3	11.2	8.2	11.8	13.6	30.9	27.5	34.3	10.1	13.6
	住まい近くの一般小売店 (中 学 地 区)	4.8	2.0	3.2	2.5	11.6	6.8	3.6	6.5	10.2	6.5	4.3	8.6	2.7	5.5
	(中 学 地 区)	1.4	1.6	0.6	1.4	2.1	5.6	2.4	5.0	9.4	10.1	11.3	8.8	3.8	4.6
	中 心 市 街 地 (広 小 路 ・ と き わ 通 り)	1.0	0.9	1.6	1.3	0.1	0.5	0.5	0.9	0.4	0.4	0.4	0.3	2.1	0.8
	(広 小 路 ・ と き わ 通 り)	0.6	0.8	0.8	0.9		0.4	0.1	1.0	0.3	0.4	0.1	2.0	0.6	
	中 心 市 街 地 (駅 前 大 通 り)	5.8	10.7	11.8	0.4	0.2	2.4	2.3	1.0	3.8	0.4	0.7	0.1	33.7	6.5
	(駅 前 大 通 り)	2.7	4.0	6.4	0.1	0.2	1.2	0.6	0.4	2.7	0.1	0.1		15.9	3.0
	中 心 市 街 地 (そ の 他 の 駅 周 辺 地 域)	2.1	2.9	2.7	1.7	1.1	0.7	0.1	0.4	1.6	0.5	0.3	0.7	4.5	1.6
	(そ の 他 の 駅 周 辺 地 域)	1.9	2.8	2.1	0.5	2.3	1.1	0.5	0.7	2.2	1.2	1.2	1.1	3.0	1.6
	藤 沢 町 ・ 牟 呂 町 (イ ト ョ ー カ ド ー ・ フ ラ ン テ 付 近)	14.7	20.8	18.2	9.1	10.6	13.5	21.8	11.6	6.7	9.7	12.3	7.0	9.8	12.8
	(イ ト ョ ー カ ド ー ・ フ ラ ン テ 付 近)	10.0	10.6	8.1	1.4	19.7	10.4	11.2	14.0	6.0	7.8	9.2	6.3	7.9	9.4
	前 田 南 ・ 向 山 町 (バ ロ ー ・ ア ビ タ 付 近)	22.1	23.3	29.9	29.3	5.6	15.0	31.3	1.6	11.7	11.9	16.2	7.6	15.4	17.2
	(バ ロ ー ・ ア ビ タ 付 近)	24.0	17.0	19.9	33.8	25.2	9.2	21.7	0.4	5.5	5.5	4.7	6.2	15.7	15.0
	岩 田 ・ 飯 村 町 (ほ び ー ら と ウ ア ・ 名 鉄 パ レ 付 近)	3.5	2.9	1.2	2.5	7.3	4.7	2.5	9.8	1.9	4.9	5.6	4.1	1.3	3.9
	(ほ び ー ら と ウ ア ・ 名 鉄 パ レ 付 近)	2.2	3.0	1.3	0.2	4.2	4.4	4.7	5.7	2.7	3.7	4.2	3.2	0.8	3.0
	つ っ じ が 丘 ・ 佐 藤 (ゼ ビ オ ・ ホ ー ム エ キ ス ポ 付 近)	7.7	2.6	17.5	11.0		6.3		17.8	1.1	2.8	5.4	0.3	0.5	5.6
	(ゼ ビ オ ・ ホ ー ム エ キ ス ポ 付 近)	12.8	5.1	0.3	44.5	1.3	5.5	0.3	14.0	2.1	2.7	4.0	1.3	0.8	7.4
	小 鷹 野 ・ 牛 川 町 (ク ッ ク マ ー ト ・ ニ ュ ー ラ イ フ フ ジ 付 近)	1.0	1.3	0.9		1.8	1.5	2.0	0.1	2.5	2.4	1.7	3.0	0.3	1.4
	(ク ッ ク マ ー ト ・ ニ ュ ー ラ イ フ フ ジ 付 近)	0.3	0.3	0.7	0.1	0.1	1.7	2.6	0.3	2.2	5.2	3.1	7.2	0.9	1.8
	中 野 町 ・ 草 間 町 (マ ッ ク ス バ リ ュ ー 付 近)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	(マ ッ ク ス バ リ ュ ー 付 近)	0.3	0.2	0.6	0.3	1.2	1.2	2.0	1.6	3.7	3.0	4.4	1.0	1.3	
	曙 町 (し ま む ら ・ フ ィ ー ル 付 近)	2.1	1.2	1.2	0.2	5.8	1.5	2.5	0.3	1.8	1.5	1.2	1.8	0.1	1.6
	(し ま む ら ・ フ ィ ー ル 付 近)	1.7	1.7	3.1	0.5	1.4	5.1	12.5	0.2	2.7	4.1	3.3	4.9	0.2	3.1
大 清 水 町 (豊 橋 南 プ ラ ザ ・ ピ ア ゴ 付 近)	0.7	0.7	1.0	0.6	0.7	2.2	1.0	3.6	1.9	4.6	4.0	5.1	1.0	2.0	
(豊 橋 南 プ ラ ザ ・ ピ ア ゴ 付 近)	0.6	0.4	0.8	0.9	0.3	5.5	3.5	9.7	3.2	6.4	6.5	6.3	1.1	3.3	
野 依 町 (ジ ャ ス コ 豊 橋 南 店 付 近)	7.4	10.9	11.2	3.9	3.5	6.4	13.1	1.0	5.1	4.5	6.0	3.0	9.2	6.7	
(ジ ャ ス コ 豊 橋 南 店 付 近)	12.1	21.3	22.7	1.9	2.5	8.2	18.4	0.9	5.4	4.4	5.4	3.3	19.3	10.1	
二 川 ・ 大 岩 町 (フ ラ ン テ ・ カ ー マ 付 近)	1.6	0.7	1.2	2.4	2.1	4.2	2.0	9.1	1.6	3.4	3.9	2.9	1.3	2.7	
(フ ラ ン テ ・ カ ー マ 付 近)	0.4	0.3	0.6	0.5	8.3	1.4	19.8	3.6	4.9	5.7	4.1	1.0	3.7		
南 栄 町 ・ 草 間 町 (駅 周 辺 及 び マ ル ヨ 付 近)	0.4	0.1	0.3	0.8	0.4	1.4	0.2	2.0	1.9	2.2	1.5	2.8	0.3	1.0	
(駅 周 辺 及 び マ ル ヨ 付 近)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
そ の 他 市 内	9.7	5.5	3.8	13.9	15.6	11.0	3.1	12.7	17.4	8.2	6.4	9.9	6.4	9.4	
市 内 合 計	7.4	7.3	2.2	5.1	15.1	7.1	1.9	10.6	8.7	5.8	5.5	6.1	6.0	6.9	
市 内 合 計	86.0	85.0	75.1	97.2	86.5	86.0	90.0	95.5	72.6	96.4	95.1	97.6	89.5	88.4	
市外	名 古 屋 市	0.6	1.1	1.1		0.1	0.2	0.1	0.4	0.1	0.1		0.5	0.4	
		2.0	2.8	5.0			0.4	0.4	0.7	0.0			1.9	1.1	
	豊 川 市 ※	1	3.3	2.6	2.5	2.0	5.9	1.7	1.8	0.9	2.3	1.5	1.2	1.7	
		4.3	2.8	2.0	1.1	11.1	3.3	3.0	4.1	2.8	2.4	3.0	1.8	1.7	
	市 外 合 計	5.9	6.1	6.9	2.9	7.8	8.2	5.2	2.7	16.8	2.7	2.5	2.9	4.0	
市 外 合 計	12.9	14.3	22.1	2.5	12.5	7.7	5.9	4.5	12.7	3.3	4.3	2.2	8.0		
イ ン タ ー ネ ッ ト	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	1.3	0.8	2.8	0.5	1.2	6.4	4.2	0.1	14.9	0.5	0.6	0.3	2.5	2.8	

(注 1) 上段 11 年、下段 21 年

(注 2) 「-」は未設定の区分、空欄は回答のなかった区分を意味する。

※1 (旧)一宮町、(旧)音羽町、(旧)御津町を除く

※2 (旧)浜北市、(旧)引佐町、(旧)細江町、(旧)三ヶ日町、(旧)雄踏町、(旧)舞阪町、(旧)天竜市、(旧)佐久間町、(旧)水窪町、(旧)龍山村、(旧)春野町を除く

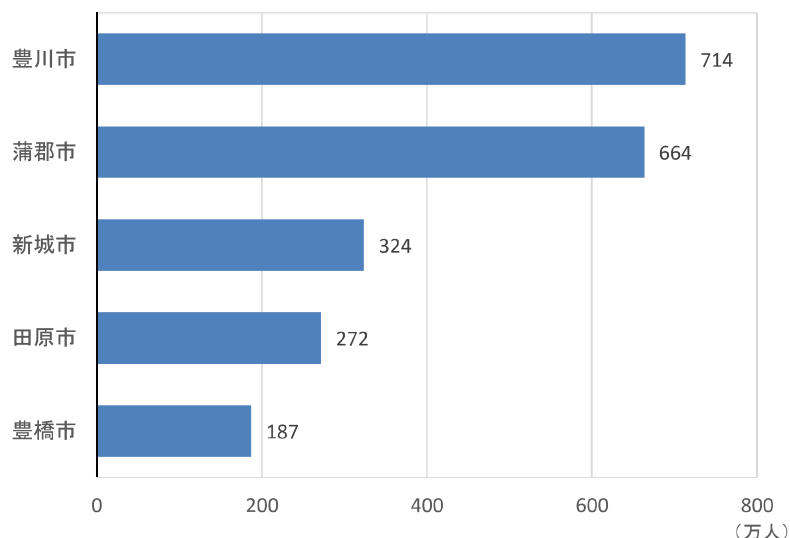
(出典：平成 22 年消費者購買動向調査結果報告書・三河部における動向)

(5) 観光の動向

- 神事、祭事などの歴史ある行事のほか動植物園、美術博物館等の施設が主要な観光資源。
- 年間入込客数は約 187 万人で、東三河都市計画区域の市のなかでは最も少ない。

- ・ 平成 29 年における本市の年間観光入込客数は約 187 万人で、東三河都市計画区域内各市のなかでは最も少ない状況にあります。
- ・ 年間 10 万人程度以上の入込客数のある観光資源としては、豊橋総合動植物公園（平成 29 年約 82 万人）、豊橋まつり（平成 28 年約 65 万人）、豊橋市美術博物館（平成 29 年約 17 万人）、賀茂しょうぶ園の花しょうぶまつり（平成 29 年約 20 万人）、吉田神社の豊橋祇園祭（平成 29 年約 11 万人）、視聴覚教育センター・地下資源館（平成 29 年約 8 万人）が挙げられます。

図表 東三河都市計画区域各市の観光入込客数の比較(H29)



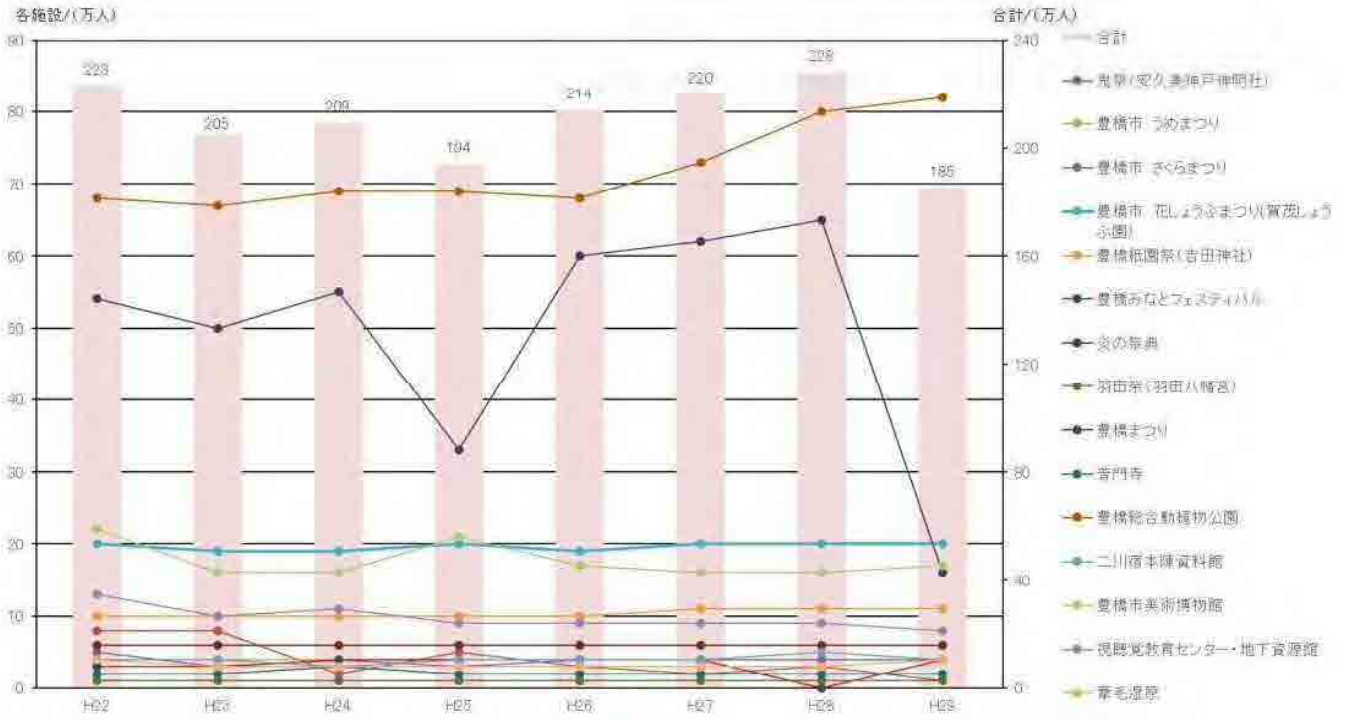
(出典: 観光レクリエーション利用者数統計)

図表 観光入込客数の動向

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
鬼祭(安久美神戸神明社)	80,000	80,000	16,000	46,000	33,000	15,000	26,000	13,000
豊橋市 うめまつり	40,000	40,000	42,000	42,000	42,000	42,000	42,000	42,000
豊橋市 さくらまつり	46,000	30,500	43,000	30,000	40,000	40,000	35,000	40,000
豊橋市 花しょうぶまつり(賀茂しょうぶ園)	195,000	193,000	194,000	204,000	190,000	200,000	200,000	200,000
豊橋祇園祭(吉田神社)	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	110,000	110,000	110,000
豊橋みなとフェスティバル	33,000	25,000	36,000	35,000	40,000	35,750		36,000
炎の祭典	55,000	55,000	55,000	56,000	57,000	56,000	58,000	58,000
羽田祭(羽田八幡宮)	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
豊橋まつり	540,000	495,000	550,000	330,000	600,000	620,000	650,000	162,000
普門寺	23,000	23,000	27,004	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000
豊橋総合動植物公園	683,279	671,928	687,789	693,676	680,912	734,524	802,495	823,782
二川宿本陣資料館	36,555	37,594	32,196	35,245	37,512	37,281	52,894	43,566
豊橋市美術博物館	215,837	161,676	158,015	213,061	169,218	160,602	159,693	173,098
視聴覚教育センター・地下資源館	126,413	97,194	105,485	91,328	93,125	93,227	86,463	82,448
葦毛湿原	41,346	33,940	30,479	32,231	26,300	28,533	33,038	39,829
合計	2,225,430	2,053,832	2,086,968	1,936,541	2,137,067	2,200,917	2,283,583	1,851,723

(出典: 観光レクリエーション利用者数統計)

図表 観光入込客数の動向



(出典:観光レクリエーション利用者統計)

6. 都市施設

(1) 都市計画道路の整備状況

●60 路線、総延長約 265.1km が都市計画決定され、整備率は 68.9%。

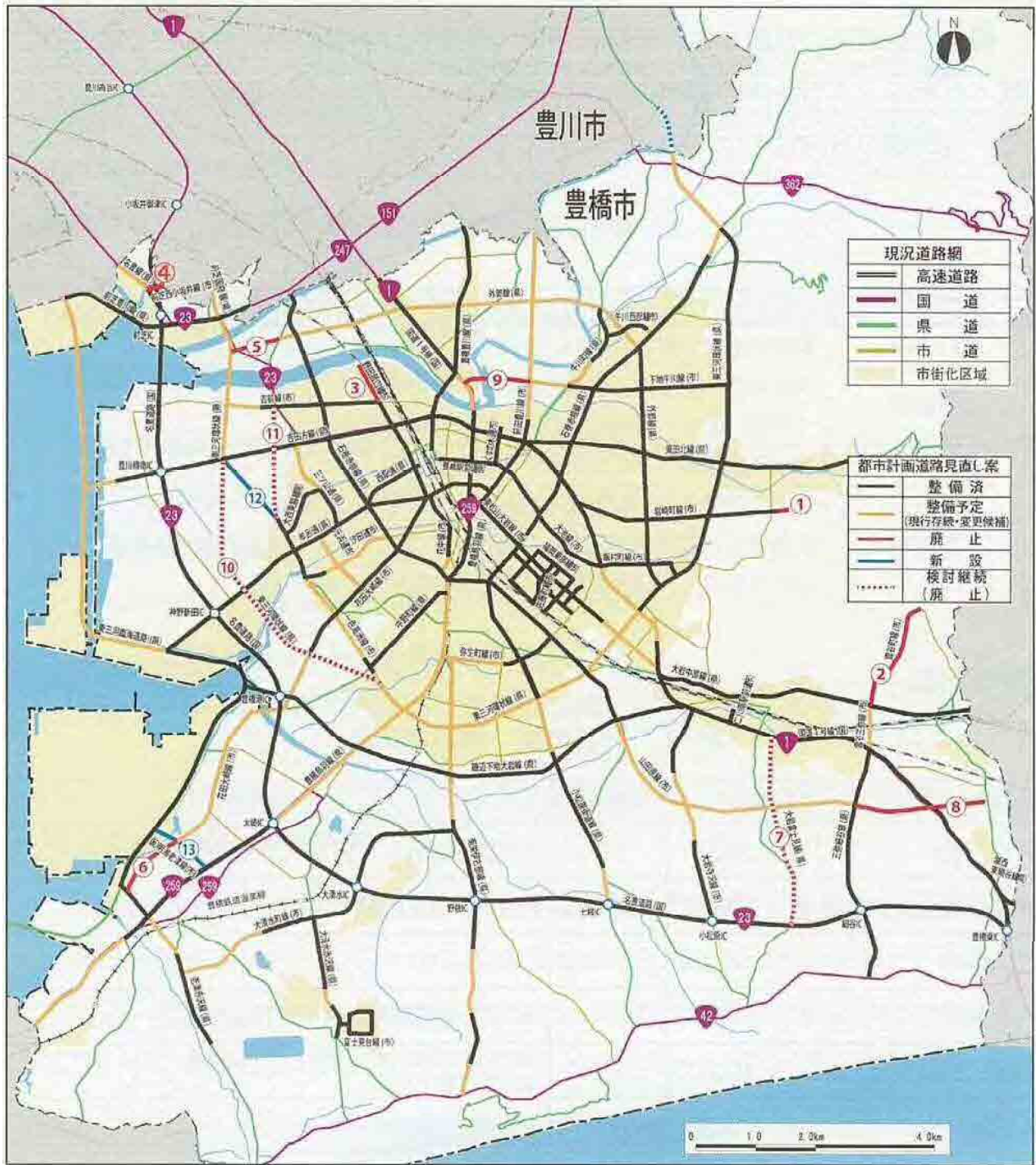
- 自動車専用道路 2 路線、幹線道路 54 路線、歩行者専用道路 4 路線の計 60 路線、総延長約 265.1km が都市計画決定されており、うち約 182.6km が改良済（整備率 68.9%）となっています。

図表 都市計画道路整備状況一覧(平成 31 年 3 月末日現在)

番号	路線名	幅員(m)	延長(m)	車線の数	計画決定年月日		改良済延長(m)
					決定	変更(直近)	
1・4・1	名豊道路	29.75 (19.75~163)	約690 (約17,610)	4	H3.11.25	H22.12.24	約690
1・4・2	名豊道路	20.5 (19.75~51)	約13,100	4	S61.6.6	H22.12.24	約13,100
3・1・5	前芝豊川線	40	約3,350 (約12,290)	6	S40.3.24	H22.12.24	約3,350
3・1・6	名豊道路	41 (19~72)	約9,400	4	S49.5.8	H22.12.24	約9,400
3・1・27	東三河臨海道路	55 (22.5~65)	約12,720	4	S49.5.8	H22.12.24	約5,600
3・2・3	豊橋鳥羽線	30	約13,540 (約20,290)	4	S3.2.4	H22.12.24	約7,730
3・2・4	東三河環状線	30 (23.5~35)	約21,980 (約36,240)	4	S40.3.24	H22.12.24	約7,440
3・2・66	西駅通	30	約1,140	4	S21.6.27	H22.12.24	約1,140
3・2・79	くすの木通	30	約630	4	H3.3.1	H22.12.24	約630
3・3・8	石巻赤根線	22	約13,780 (約19,800)	4	S3.2.4	H22.12.24	約13,060
3・3・23	豊橋豊川線	24	約3,850 (約7,650)	4	S3.2.4	H22.12.24	約3,850
3・3・33	名豊線	24	約990 (約18,840)	4	S40.3.24	H22.12.24	約310
3・3・35	吉田方線	22	約6,590	4	S3.2.4	H22.12.24	約6,090
3・3・78	牟呂通	22	約6,320	4	S3.2.4	H22.12.24	約6,320
3・4・1	国道1号線	21.5	約16,870 (約31,400)	4	S3.2.4	H22.12.24	約14,540
3・4・9	磯辺下地大岩線	16	約7,580	2	S3.2.4	H22.12.24	約7,580
3・4・11	大岩中原線	16	約5,420	2	S36.3.16	H22.12.24	約5,420
3・4・18	小松原街遺線	20	約5,980	2	S3.2.4	H22.12.24	約4,812
3・4・26	花田大崎線	20	約10,650	2	S3.2.4	H22.12.24	約5,350
3・4・32	南茶伊吉部線	16	約7,540	2	S40.3.24	H22.12.24	約2,842
3・4・37	一色高洲線	16	約5,170	2	S3.2.4	H22.12.24	約1,581
3・4・39	牛川町線	16	約1,620	2	H3.3.1	H22.12.24	約1,000
3・4・40	老津赤沢線	16	約3,090	2	S46.3.31	H22.12.24	約2,330
3・4・42	大岩富士見線	16	約3,330	2	S40.3.24	H22.12.24	—
3・4・43	大清水赤沢線	16	約2,120	2	S56.4.6	H22.12.24	約1,360
3・4・44	大清水町線	16	約5,730	2	S40.3.24	H22.12.24	約3,993
3・4・64	豊橋駅前通	20	約2,030	4	S3.2.4	H22.12.24	約2,030
3・4・65	中野町線	16	約1,860	2	S40.3.24	H22.12.24	約1,860
3・4・75	前芝国府線	16	約470 (約5,630)	2	S40.3.24	H22.12.24	—
3・4・77	三ツ山通	16	約900	2	H12.10.31	H22.12.24	約150
3・4・301	下地牛川線	16	約4,450	2	S3.2.4	H22.12.24	約2,900
3・4・302	山田原線	16	約10,330	2	S40.3	H29.1.11	約3,216
3・4・303	三川南駅前通	20	約230	2	H10.4.3	H22.12.24	約230
3・4・307	大池線	20	約1,390	2	S21.6.27	H22.12.24	約1,390
3・4・310	汐田通	16	約1,600	2	H12.10.31	H22.12.24	約780
3・4・312	東松山大岩線	20	約4,330	2	S21.6.27	H22.12.24	約2,975
3・4・317	元浜通	16	約1,100	2	H12.10.31	H22.12.24	約185
3・4・318	弥生町線	16	約1,970	2	S40.3.24	H22.12.24	約970
3・4・319	吉前線	16	約2,580	2	S40.3.24	H22.12.24	約1,975
3・5・7	東田北線	15	約5,740	2	S3.2.4	H22.12.24	約5,740
3・5・17	湖西東細谷線	14.5	約210	2	S56.8.17	H22.12.24	約210
3・5・45	大西東脇線	12	約1,690	2	S58.11.16	H22.12.24	約1,390
3・5・47	外郭線	15 (12~26)	約10,570	2	S3.2.4	H22.12.24	約4,360
3・5・73	三弥細谷線	12	約4,040	2	S36.3.16	H26.9.26	約4,040
3・5・304	飯村町線	12	約1,360	2	S54.11.29	H22.12.24	約1,360
3・5・305	岩崎町線	15	約3,320	2	S3.2.4	H29.3.24	約3,320
3・5・306	牛川西部線	12	約830	2	H3.3.1	H22.12.24	約830
3・5・308	大岩寺沢線	12	約3,820	2	S61.6.6	H26.3.4	約2,495
3・5・309	佐藤町線	12	約750	2	S54.11.29	H22.12.24	約750
3・5・311	花中線	15	約1,440	2	S40.3.24	H22.12.24	約1,140
3・5・313	福西東部線	12	約2,900	2	S54.11.29	H22.12.24	約2,900
3・5・314	富士見台線	12	約1,630	2	S56.4.6	H22.12.24	約1,630
3・5・315	前芝西小坂井線	12	約300	2	S40.3.24	H22.12.24	—
3・5・316	前田豊川線	15	約4,930	2	S3.2.4	H22.12.24	約1,950
3・5・320	雲谷町線	12	約1,980	2	H22.12.24	H22.12.24	—
3・5・322	雲谷三歌線	12	約740	2	H26.9.26	H26.9.26	—
8・7・301	歩行者専用道路豊橋1号	6	約1,430	2	S54.11.29	H22.12.24	約1,430
8・7・302	歩行者専用道路豊橋2号	6	約290	2	S54.11.29	H22.12.24	約290
8・7・303	歩行者専用道路豊橋3号	6	約410	2	S54.11.29	H22.12.24	約410
8・7・304	歩行者専用道路牛川町1号線	6	約310	2	H3.3.1	H22.12.24	約138
合計			約265,110 (約434,860)				約182,562 (68.86%)

(出典:H31 豊橋の都市計画資料編)

図表 廃止候補並びに新規候補区間図



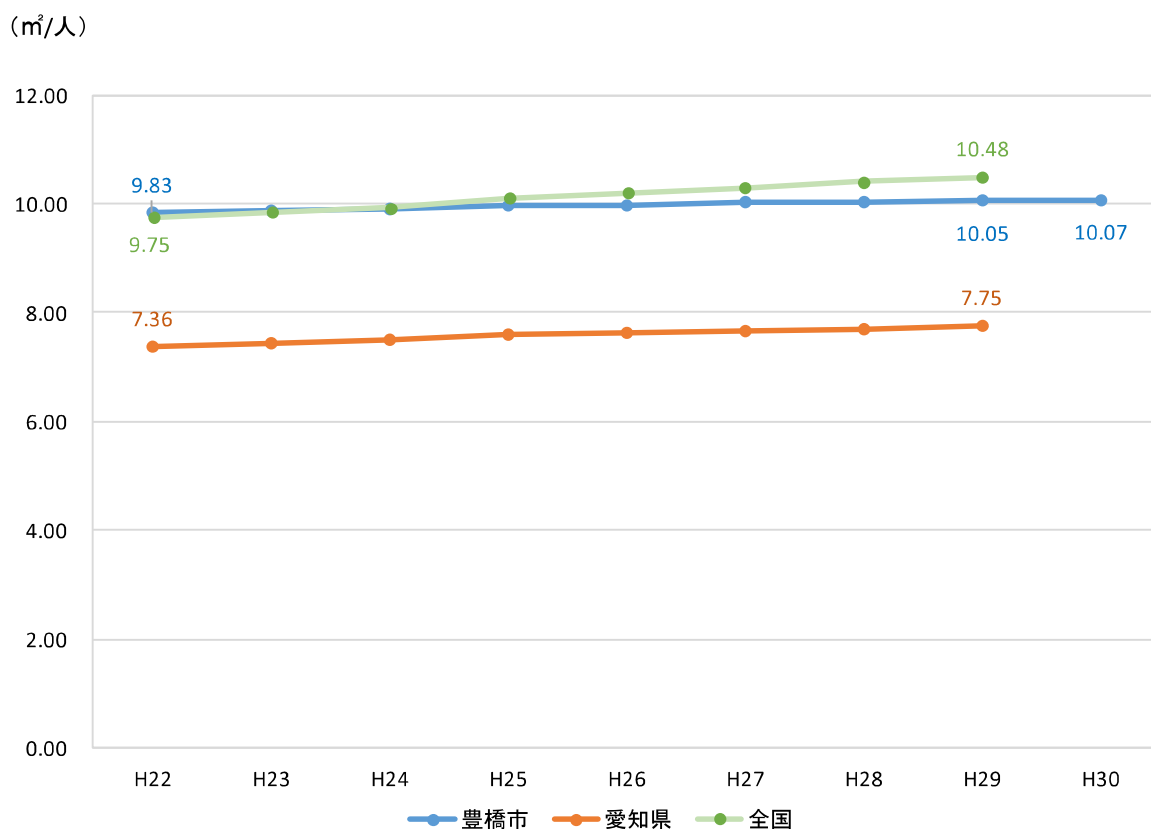
(出典: 豊橋市都市計画道路見直し結果)

(2) 都市公園の整備状況

- 385 箇所 299.23ha の都市公園、緑地が整備されている。
- 人口一人あたり公園面積は 10.05 m² で、全国平均を若干下回るものの、愛知県平均を大きく上回る水準で整備されている。

- ・ 街区公園 341 箇所 (53ha)、近隣公園 12 箇所 (16.8ha)、地区公園 5 箇所 (27.6ha)、総合公園 5 箇所 (116ha)、運動公園 3 箇所 (49.3ha)、緑地 19 箇所 (36ha)、総計 385 箇所 299.23ha が整備されています。
- ・ 都市公園の市域人口一人あたり面積は平成 29 年時点で 10.05 m² であり、全国の平均を若干下回るものの、愛知県の平均を大きく上回る整備水準となっています。

図表 都市公園の市民一人あたり面積の推移



(出典:平成 31 年度版豊橋の公園緑地資料編)

図表 都市公園の整備状況

街区公園

Table with 10 columns: 公園名, 供用面積(ha), 公園名, 供用面積(ha), 公園名, 供用面積(ha), 公園名, 供用面積(ha), 公園名, 供用面積(ha). Lists various parks and their areas across the city.

緑地

Table with 2 columns: 公園名, 供用面積(ha). Lists green spaces such as 賀茂緑地, 忠興緑地, etc.

近隣公園

Table with 2 columns: 公園名, 供用面積(ha). Lists neighborhood parks like 三本松公園, 半ノ木公園, etc.

運動公園

Table with 2 columns: 公園名, 供用面積(ha). Lists sports parks including 岩田運動公園, 豊橋総合スポーツ公園, etc.

地区公園

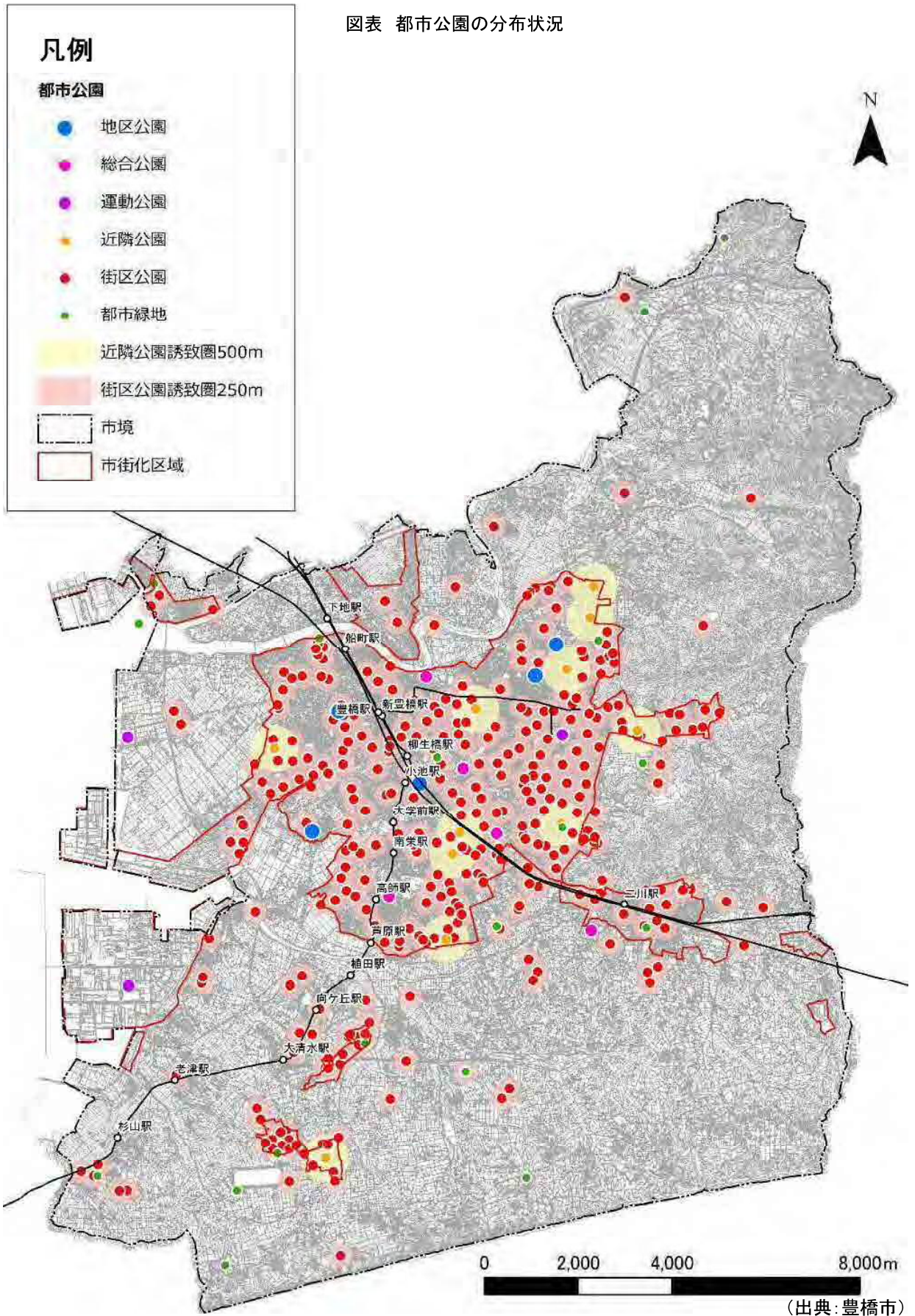
Table with 2 columns: 公園名, 供用面積(ha). Lists regional parks such as 牛川遊歩公園, 東田公園, etc.

総合公園

Table with 2 columns: 公園名, 供用面積(ha). Lists comprehensive parks like 高師緑地, 豊橋公園, etc.

(出典：平成31年度版豊橋の公園緑地資料編)

図表 都市公園の分布状況



(3) 下水道の整備状況

● 公共下水道、地域下水道の整備が進み、下水道普及率は約 79%、水洗化率は約 97%。

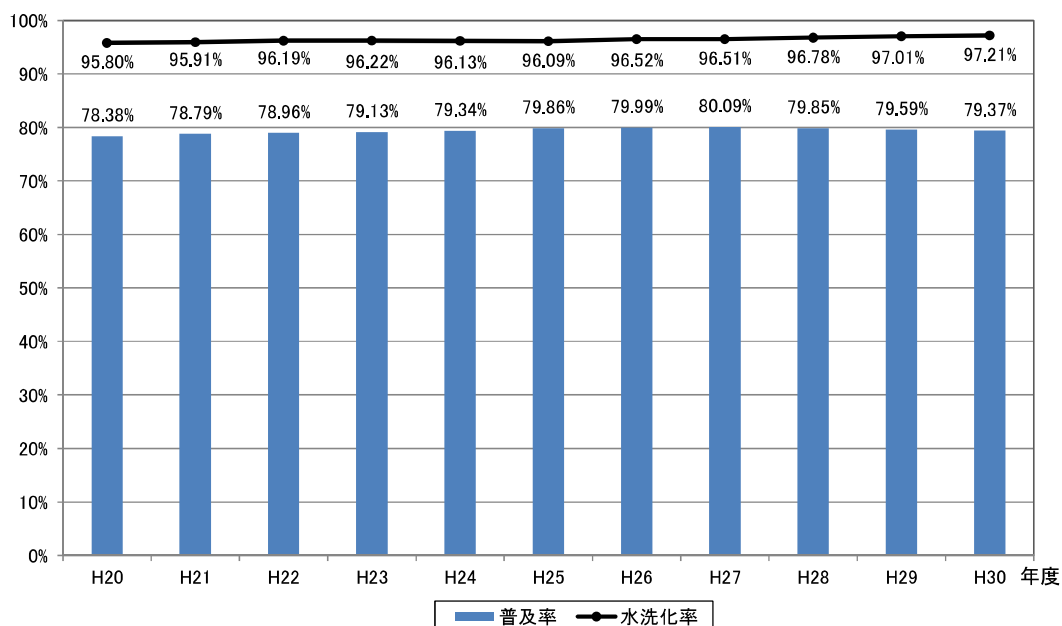
- ・ 本市の下水道処理は、市街化区域においては公共下水道（豊川流域関連公共下水道、単独公共下水道）、市街化調整区域においては地域下水道（特定環境保全公共下水道、農業集落排水施設、コミュニティ・プラント等し尿処理施設）により処理されています。
- ・ 平成 30 年における下水道処理面積は 5,412ha で、下水道普及率（総人口のうち下水道処理区域内の居住人口）は 79.37%、水洗化率（下水道整備済区域内に住んでいる人口のうち、既に水洗便所を設置して汚水を下水道で処理している人口の割合）は 97.21%に達しています。

図表 下水道の整備状況

年度	行政人口 (人)	処理面積 (ha)	処理人口 (人)	水洗化人口 (人)	水洗化率	普及率
H20	384,431	5,129	301,328	288,675	95.80%	78.38%
H21	382,491	5,175	301,354	289,023	95.91%	78.79%
H22	381,631	5,213	301,338	289,856	96.19%	78.96%
H23	380,538	5,245	301,127	289,750	96.22%	79.13%
H24	379,678	5,280	301,230	289,579	96.13%	79.34%
H25	378,530	5,340	302,278	290,467	96.09%	79.86%
H26	377,962	5,373	302,331	291,823	96.52%	79.99%
H27	377,575	5,404	302,416	291,861	96.51%	80.09%
H28	376,886	5,410	300,930	291,227	96.78%	79.85%
H29	376,478	5,412	299,634	290,675	97.01%	79.59%
H30	376,181	5,412	298,576	290,244	97.21%	79.37%

(出典:とよはしの上下水道)

図表 下水道の普及率と水洗化率



(出典:とよはしの上下水道)

